

2019年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・ 1

- ・事業概要
- ・研修日程表
- ・派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
- ・派遣日程表
- ・各学校独自の取組について

○研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

日本とデンマークの生活の違い

登別市立鷺別中学校 1年 木下 耕太郎

デンマークの伝統的な文化について

登別市立鷺別中学校 3年 清瀬 栞奈

デンマークの食べ物について

登別市立鷺別中学校 3年 宮本 彩希

デンマークの首都「コペンハーゲン」

登別市立西陵中学校 1年 船田 清夏

デンマークの教育について

登別市立西陵中学校 2年 滝沢 恵生

日本とデンマークの交流の歴史

登別市立緑陽中学校 1年 樋口 暖日

デンマークのテレビ

北海道登別明日中等教育学校 1回生 佐藤 杏花音

食文化から探る幸福度ナンバーワンの秘密

北海道登別明日中等教育学校 1回生 寺沢 美柚

デンマークの建物について

北海道登別明日中等教育学校 3回生 柳瀬 望琉

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5

木下 耕太郎	:	英語の意味とは
清瀬 栞奈	:	デンマークで学んだこと
宮本 彩希	:	デンマークの感想
船田 清夏	:	ホームステイ先での経験
滝沢 恵生	:	初めての海外、そしてデンマーク
樋口 暖日	:	デンマークに行って楽しかったこと、いろいろ
佐藤 杏花音	:	デンマークで過ごした最高の夏休み
寺沢 美柚	:	デンマークで知った食文化
柳瀬 望琉	:	親切な心に触れて

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 3

団 長	:	土門 和宏	登別市総務部総務グループ総括主幹
引率者	:	吉井 真裕	登別市立西陵中学校教諭

○帰国報告会資料[派遣生徒]・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 8

○帰国報告会資料[引率者]・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4 9

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や日本とは異なる生活・文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

2019年8月9日（金）～ 17日（土）：8泊9日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園、老人ホーム、オリンピック関連スポーツ施設

5 研修内容

(1)結 団 式：2019年7月2日（火）

(2)事前研修：2019年7月5日（金）～8月6日（火）計10回
デンマークの概要の学習、研修テーマの決定、英会話、
デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

〔OB懇談会（第7回事前研修）講師〕

派遣OB：大澤 玲裕〔H30年度：団長〕

斎藤 智弥〔H30年度：引率英語教諭〕

村元 優希〔H30年度：登別市立幌別中学校〕

石山 明寿香〔H30年度：登別市立登別中学校〕

和田 笙〔H30年度：登別市立緑陽中学校〕

〔保護者懇談会（第7回事前研修）出席者〕

派遣OB保護者：村元さん、石山さん、和田さん

今年度保護者：船田さん、樋口さん、佐藤さん

(3)事後研修：2019年8月30日（金）～ 10月3日（木）計6回
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：2019年10月4日（金）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07 月 02 日 (火)	結団式・第 1 回保護者説明会		市民会館/小会議室	18 : 00～19 : 30
07 月 05 日 (金)	事前研修①	デンマークの概要説明、昨年の様子紹介、リーダーの決定、アトラクション担当パート決定、研修テーマ検討、特技披露検討	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 08 日 (月)	事前研修②	研修テーマ決定、英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 12 日 (金)	事前研修③	手紙の書き方 英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 19 日 (金)	事前研修④	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 23 日 (火)	事前研修⑤	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 26 日 (金)	事前研修⑥	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
07 月 27 日 (土)	事前研修⑦	O B 懇談会	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
07 月 29 日 (月)	第 2 回保護者説明会（保護者）		市役所/第二委員会室	18 : 00～19 : 00
07 月 30 日 (火)	事前研修⑧	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
08 月 02 日 (金)	事前研修⑨	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
08 月 06 日 (火)	事前研修⑩	総練習、最終打合せ	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
08 月 07 日 (水)	市長へ出発挨拶（派遣者）		市役所/市長応接室	10 : 00～10 : 30
08 月 09 日 (金)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	13 : 40～
08 月 17 日 (土)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	16 : 10 頃
08 月 22 日 (木)	市長へ帰国挨拶（派遣者）		市役所/市長応接室	16 : 30～17 : 00
08 月 30 日 (金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 06 日 (金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 13 日 (金)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 20 日 (金)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 27 日 (金)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
10 月 03 日 (木)	事後研修⑥	帰国報告会リハーサル	市民会館/大会議室	16 : 30～18 : 00
10 月 04 日 (金)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18 : 00～19 : 30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登 別 市 立 鷲 別 中 学 校	1 年 生	木 下 耕 太 郎
登 別 市 立 鷲 別 中 学 校	3 年 生	清 瀬 栞 奈
登 別 市 立 鷲 別 中 学 校	3 年 生	宮 本 彩 希
登 別 市 立 西 陵 中 学 校	1 年 生	船 田 清 夏
登 別 市 立 西 陵 中 学 校	2 年 生	滝 沢 恵 生
登 別 市 立 緑 陽 中 学 校	1 年 生	樋 口 暖 日
北海道登別明日中等教育学校	1 回 生	佐 藤 杏 花 音
北海道登別明日中等教育学校	1 回 生	寺 沢 美 柚
北海道登別明日中等教育学校	3 回 生	柳 瀬 望 琉

引 率 者	団 長	登別市総務部 総務グループ 総括主幹	土 門 和 宏
	引率教諭	登 別 市 立 西 陵 中 学 校	吉 井 真 裕
	市民 サポーター	—	福岡 ひろみ

○ ホストファミリー名簿

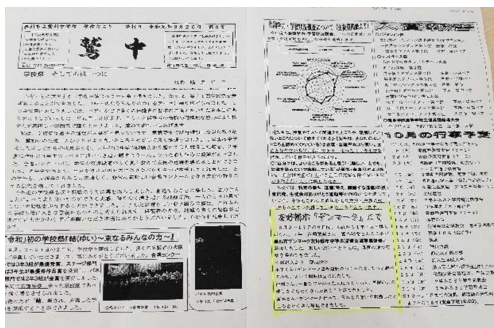
派遣者名	ホ ス ト 名	性別	家 族 構 成
木下 耕太郎	Albert Møller Mark Pedersen アルバート・ムラー・マルク・ペダセン	男	父 母 兄 ステファン メレーテ ラスムス
	Gustav Bentzenberg Poulsen グスタフ・ベンツェンバーグ・ポウルセン	男	父 母 弟 妹 トーベン レギツェ ヴィラス カレン・マリー
清瀬 栞奈	Sofie Botoft Kildegaard ソフィ・ボトフ・キレゴー	女	父 母 弟 ヘンリック マイブリット フレデリク
	Mille Brandt Frederiksen ミレ・ブランド・フレデリクセン	女	父 母 兄 レーネ レナ マス
宮本 彩希	Annabel Reinhold Rasmussen アナベル・ラインホルト・ラスムッセン	女	父 母 ラーズ テレーゼ
寺沢 美柚	Liva Bendt Floodness リーバ・ベント・フラドネス	女	父 母 弟 妹 弟 ステファン リーネ アクセル エスター ヴィゴ
	Emma-Victoria Pustelnik Nielsen エマ・ヴィクトリア・プステルニク・ニルセン	女	父 母 姉 兄 妹 ソレン エリン アネ・カトリーヌ アレクサンダー ヨセフィーヌ
滝沢 恵生	Viktor Vest Fuglsang ヴィクター・ヴェスト・フルサン	女	父 母 妹 弟 キム ライラ フライヤ フレデリク
樋口 暖日	Gustav Valentin Axelsen グスタフ・ヴァレンティン・アクセルセン	男	父 母 兄 オレ シャーロット アルベルト
佐藤 杏花音	Andrea Skregeskov アンドレア・スクレイエスコウ	女	父 母 弟 ヘンリック カリナ セバスティアン
船田 清夏 柳瀬 望琉	Astrid Nørby knudsen アストリド・ノルビ・クヌーセン	女	父 母 妹 弟 ブライアン ハンネ イダ アンドレアス
団 長 土門 和宏 引率教諭 吉井 真裕 市民サポーター 福岡 ひろみ	Emma-Victoria Pustelnik Nielsen エマ・ヴィクトリア・プステルニク・ニルセン	女	父 母 姉 兄 妹 ソレン エリン アネ・カトリーヌ アレクサンダー ヨセフィーヌ

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/9 (金)	市役所 ⇒新千歳空港 05:30 06:40	《1日目》 05:15 市役所裏玄関に集合 05:30 市バスで新千歳空港へ 06:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き		ホテル
	新千歳空港 ⇒成田空港 07:45 09:20	07:45 全日空(NH2152 便)で成田空港へ 09:20 成田空港到着後、出国手続き		
	成田空港 ⇒コペンハーゲン 11:10 空港 15:30 (デンマーク時間)	11:10 スカンジナビア航空(SK984 便)でコペンハーゲン空港へ (約 11 時間 20 分) 15:30 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き(荷物受取り、税関審査) 空港から駅へ徒歩移動	機内食	
	コペンハーゲン⇒コペンハーゲン 空港駅 中央駅 17:35 17:48	17:35 普通列車でコペンハーゲン中央駅へ 17:48 コペンハーゲン中央駅到着	派遣 交流団	
	コペンハーゲン⇒ホテル 中央駅 18:00 17:50	17:50 駅からホテルへ徒歩移動 18:00 ホテルにチェックイン(ベストウェスタンホテル ヘブロン)	(夜)	
8/10 (土)	ホテル ⇒コペンハーゲン 09:00 中央駅 09:11	《2日目》 09:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル (朝)	ホスト
	コペンハーゲン⇒オーデンセ駅 中央駅 09:52 11:08	09:52 コペンハーゲン中央駅で列車 (ICL343) に乗車、オーデンセへ	派遣	
	オーデンセ市内	11:08 オーデンセ駅着 アネさん引率でオーデンセ市内を徒歩で見学	交流団 (昼)	
	オーデンセ駅 ⇒リング駅 15:13 15:29	15:13 オーデンセ駅で普通列車に乗車、リングへ 15:29 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ	ホスト (夜)	
8/11 (日)	ファボー・ミッドフュン市内	《3日目～6日目》 ・ホストファミリーと過ごす ・リングフリー校授業参加 ・ファボー・ミッドフュン市役所表敬訪問 ・ノーアエア校訪問、森の幼稚園訪問、老人ホーム訪問 ・イーエスコ城見学 ・レゴランド訪問	ホスト	ホスト
8/14 (水)				
8/15 (木)	ホスト宅 ⇒リング駅 08:30	《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅へ向かう 08:30 リング駅到着	ホスト (朝)	ホテル
	リング駅 ⇒オーデンセ駅 08:53 09:13	08:53 普通列車でオーデンセ駅へ 09:13 オーデンセ駅着	派遣 交流団 (昼・夜)	
	オーデンセ駅 ⇒コペンハーゲン 09:51 中央駅 11:08	09:51 列車(IC22)に乗り換え、コペンハーゲン中央駅へ		
	コペンハーゲン⇒ホテル 中央駅 11:08 11:20	11:08 駅からホテルへ徒歩移動 11:20 ホテルで荷物を預かってもらう		
	コペンハーゲン⇒ブロンビュ	12:00 オリンピック関連スポーツ施設を見学に		
	コペンハーゲン市内	17:00 ホテルにチェックイン (ベストウェスタンホテル ヘブロン) 17:30 コペンハーゲン市内見学、チボリ公園訪問		
8/16 (金)	ホテル ⇒コペンハーゲン 10:00 中央駅 10:10	《8日目～9日目》 10:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル (朝)	機内泊
	コペンハーゲン⇒コペンハーゲン 中央駅 11:16 空港駅 11:29	11:06 普通列車に乗車、コペンハーゲン空港駅へ 11:29 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩。出国手続き	派遣 交流団 (昼)	
	コペンハーゲン⇒成田空港 空港 15:45 09:35 (日本時間)	15:45 スカンジナビア航空(SK983 便)で成田空港へ (約 10 時間 50 分) 09:35 成田空港到着後、入国手続き、税関審査	機内食 (夜・朝)	
8/17 (土)	成田空港 ⇒新千歳空港 13:30 15:15	13:30 全日空(NH1127 便)で新千歳空港へ 15:15 新千歳空港到着後、荷物受取り、市バスに乗車	派遣	
	新千歳空港 ⇒市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着	交流団 (昼)	


○ 各学校独自の取組について

デンマーク王国での貴重な体験を通して、生徒が現地で学んだことや感じたことを同世代の生徒に発表する場を設けていただき、国際性豊かな人材の育成や本事業のPRに寄与していただきました。

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立鷺別中学校	1年生	木下 耕太郎
	3年生	清瀬 栞奈
	3年生	宮本 彩希
<p>【取組内容】</p> <p>⇒9月26日（木）発行の「鷺中」第6号に、3人の感想文（一部抜粋）を掲載。</p> 		

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立西陵中学校	1年生	船田 清夏
	2年生	滝沢 恵生
<p>【取組内容】</p> <p>⇒デンマーク王国での体験や研修内容を発表する予定。日程などは未定。</p>		

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立緑陽中学校	1年生	樋口 暖日
<p>【取組内容】</p> <p>⇒デンマーク王国での体験や研修内容を発表する予定。日程などは未定。</p>		

学 校 名	学 年	生 徒 名
北海道登別明日中等教育学校	1回生	佐藤 杏花音
	1回生	寺沢 美柚
	3回生	柳瀬 望琉
<p>【取組内容】</p> <p>⇒10月4日（金）開催の3回生集会において柳瀬さんが、デンマーク王国滞在中の体験について発表。 10月8日（火）の英語の授業の中で佐藤さんと寺沢さんが、各自の研修内容について発表。</p> 		

研修テーマ

日本とデンマークの生活の違い

登別市立鷺別中学校 1 年 木下 耕太郎

今回、僕は、「日本とデンマークの生活の違い」について、ホストファミリーと過ごす中で調べてきました。すると、日本では見られないようなデンマークの人々の様子が次々と浮かび上がってきました。

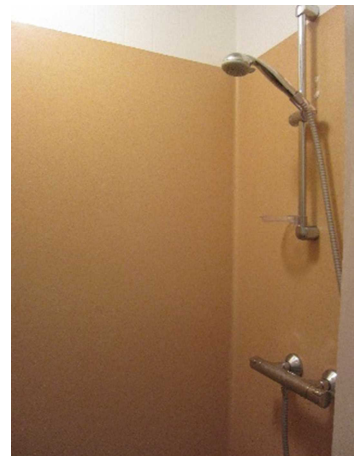


まずは、「学校の靴」についてです。日本の学校の外では「外靴」、中では「上靴」というように、靴を場所ごとに履き替える生活しています。しかし、デンマークの学校では、基本的に靴を履き替えずに、外靴のままで生活し、外靴では入れない所では、上靴などは無

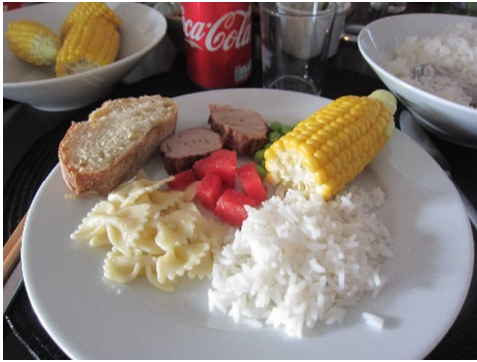
いため、靴下で中に入ります。自分が思うそれぞれの利点は、上靴がある場合は、床などの清潔さを保てるということ、上靴が無い場合は、そこに上靴がある必要が無いので、いろんな出入口から自由に出入りできるということです。

次に、「夜のリビングの明かり」についてです。日本では、ほとんどの家庭が照明でリビングを照らして夜を過ごしています。また、最近では、明るさを細かく調節したり、スリープタイマーをかけたりできる照明も増えてきました。それに対して、僕のホストファミリーの家のリビングでは、テーブルに何本かのロウソクを置き、その火で室内を照らして過ごしていました。外が完全に真っ暗になると、それらのロウソクの火だけが唯一の明かりとなり、とても幻想的でした。

次に、「お風呂」についてです。日本では浴室にシャワーとバスタブがあり、身体を洗った後、湯に浸かることができますが、デンマークにはバスタブがなく、シャワーを浴びるスペースが、カーテンで仕切られているだけでした。シャワーだけなので、水が無駄



にしたり、スペースを大きく取ったりすることは無いと思いますが、僕個人としては、湯に浸かることができた方が嬉しいと思いました。



最後に、「食事の食べ方」についてです。日本の自分の家の食事は、だいたい親がメニューや量を決めて、用意して出してくれます。例えば、トーストの枚数や上に乗せる具材なども、です。しかし、ホストファミリーの家では、自分の食べたい物を食べただけ取る

ことのできる、バイキングのような形式でした。個人の自由に任されていると感じました。そして、ホストファミリーの家で出された料理は、初めて見る物も多かったですが、どれも美味しかったです。

このように、日本とデンマークでは、生活の中にいろいろな違いが見られることがわかりました。どちらにもそれぞれ良いところがあり、日本に取り入れたいこともありました。また、もっとデンマークで過ごすことで、建物についても調べたいという興味がわいたり、より細かいところまで生活の違いを見つけてみたいと思いました。

デンマークの伝統的な文化について

登別市立鷺別中学校 3 年 清瀬 栞奈

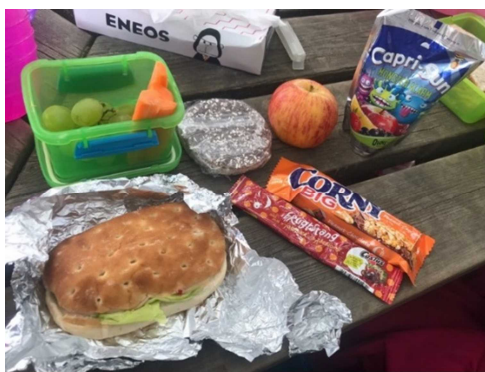
私は、「デンマークの伝統的な文化」という研修テーマを持って、デンマークへ旅立ちました。

デンマークへ到着し、早速一つ日本とは違う文化を見つけることができました。それは、「日本は、道路にはほとんど信号があつて、歩行者と運転手はその信号に従って行動している。しかし、デンマークの駅周辺では、人通りが多いのにも拘わらず、信号も少



なく、歩行者と運転手はゆずり合いをしながら進んでいる。」ということです。この違いを見つけた時、私は「外国人は自己主張が強い」というイメージを持っていたので、驚きもあり、感動もありました。

二つ目は、2～3日ホストファミリーと過ごした頃に気づいたことです。日本では、夜ご飯はもちろん、朝ご飯も、毎日違うものを食べる家庭が多く、白米からパン、麺類まで種類も様々だと思います。それに比べ、デンマークの朝ご飯は、主食はほとんどパン、他にはコーンフレークやヨーグルトなどが多いと知りました。その中でも、私が一番驚いたことは、ほとんどの家庭で、朝ご飯が毎日同じ物ということです。私は、パンもヨーグルトも大好きだし、あまり飽き性な性格ではないので、全く苦痛ではなかったのですが、飽き性な人などには大丈夫なのかな？と疑問に思いました。



三つ目は、「デンマークの昼食文化」についてです。日本の昼食は、主にお弁当や学食、給食などですが、デンマークは、お弁当のみで、また、その中身を見て、私はとても驚きました。日本の定番スタイルのお弁当の中

身と言えば、玉子焼きやウィンナー、トマトなどですが、デンマークのお弁当の中身は生の野菜や果物たちが多かったです。私も1日目、苦手な生のニンジンが入っていたので、1本だけ食べて、残りは清夏さんに渡して食べてもらいました。しかし、デンマークの子達は、みんな笑顔で美味しそうに食べていたので、「日本人と全然味覚が違うな〜。」と思いました。

四つ目は、研修4日目に同級生のホストの子とリングフリー校（中学校）で授業を受けた時のことです。数学の授業を受けていた時のこと、プリントに書き込むことになり、ホストの子から「Please



pen.」と言われたので、いつも通りにシャーペンを貸すと、「No, No, pen!」と言われました。私は「This is a pen.」と答えると、彼女は「What?」と困った顔をしました。それで私は、その日唯一1本だけ持っていた鉛筆を渡すと、彼女は「Yes! Yes! Thank you!」と言いました。私は「You are welcome…」と答えました。その時私は、『どうして鉛筆は知っているのに、シャーペンは知らないのだろうか?』と少し疑問に思ったので、家に帰り、ホストファミリーに聞いてみると、デンマークには、あまりシャーペンやボールペンなどを使う習慣が無く、鉛筆や蛍光ペン、日本で言うプロッキーのようなものを使うということが分かりました。私はそれを聞いた時、すごく驚きました。そして、『細かい文字を書く時は書きにくくないのかな〜?』と少し疑問に思いました。

五つ目は、「遊びの文化」についてです。日本で定番の遊びと言えば、「おにごっこ」やトランプ、メディアゲームなどが多いですが、デンマークはスポーツやボードゲーム、身体を使った遊びをすることが多いそうです。そのため、メディアに触れるのが少ないせいか、メガネをかけている生徒や視力が悪いという生徒は少ないように感じました。

このようなことから、デンマークと日本の文化はいろいろな場面で異なり、たくさんの違いを見つけることができました。また、デンマークの街は美しく、見ていてとても楽しく、今回の訪問は最高の思い出になりました。

デンマークの食べ物について

登別市立鷺別中学校 3年 宮本 彩希

私は、『デンマークの食べ物』について現地で調べてきました。

私が出国して最初に食べたものは、国際線の機内食でした。機内食はパンと野菜がメインで、他にチーズやビスケット等がありました。



次は、ホテルの食事を紹介します。ホテルはバイキング制でした。食べ物はやはり野菜が多かったです。その他にもハムやチーズ、ヨーグルトがありました。少し驚いたことはりんごや梨がまるごと置いてあったことです。もちろんディスプレイではありません。ホームステイ中にも、ホストからりんごをまるごともらった人がいて、丸かじりしていました。



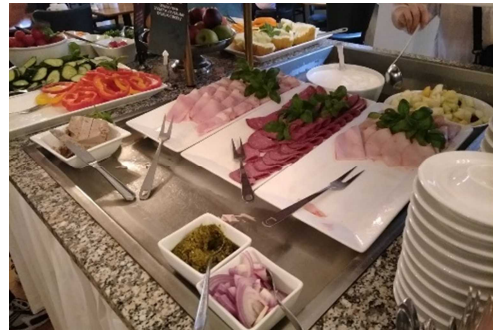
ホストの家ではゆでた野菜と「フォガデラ」という、日本のハンバーグのようなものを食べました。飲み物も、日本ではお茶や水を飲みますが、現地では果物のジュースが多かったです。そして、デンマークで最もよく見かけたお菓子は

「ラクリス」でした。これは、現地の子供たちが大好きでよく食べていました。しかし、味がとても個性的なので、日本にお土産として持って帰りましたが、口に合わない人が多かったです。ちなみに、団長が買ったラクリスの味が一番濃かったです。

これは、ほぼ全ての食べ物に共通して私が思ったことですが、固いものが多かったです。パンも、フランスパンのようなもので、野菜やお肉、お菓子も歯ごたえのあるものばかりでした。味付けも濃いイメージをもっていました、実際はやさしい味が多く、普段日本食を食べている私たちにも受け入れられる

と思います。

このように、デンマークの食べ物は、野菜や果物が中心のとてもヘルシーなものばかりでした。そのためか、現地の人たちはやせ型の人が多く、太った人はほとんどいませんでした。日本には今、ファストフードやインスタント食品など、添加物が多い

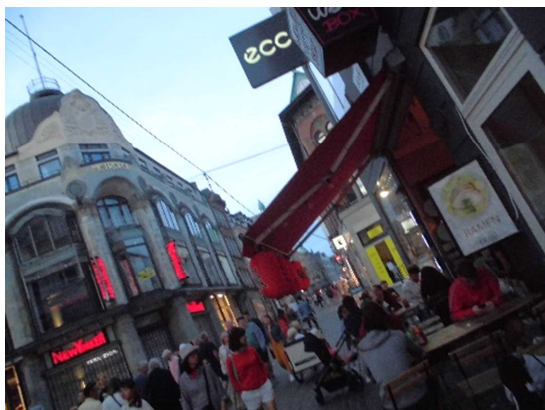


のでそのような点は日本も、デンマークを見習うべきだと思いました。私自身も、これからの生活で、味の濃いお菓子や食事をひかえていきたいと思います。皆さんも、デンマークの食事を生活にとり入れてみたらどうでしょうか。

首都「コペンハーゲン」について

登別市立西陵中学校 1 年 船田 清夏

私の研修テーマは、デンマークの首都「コペンハーゲン」についてです。コペンハーゲンに行って自分で感じた街の様子を、紹介したいと思います。



まずは、ホテル近くの様子です。そこには、様々なジャンルのお店が立ち並び通りやチボリ公園という大型遊園地、落ち着いた雰囲気のコペンハーゲン駅がありました。通りは、観光客や現地の若い人たちでにぎわい、ライブやフェス、道端でサククスやバイオリンを弾いている人がいて、聞こえてくる音楽が多様でした。

お店は、人形屋さんで見かけた綿を回す大きなマシンや独特な絵の看板などの個性的な物、日本でもおなじみのマクドナルドやセブンイレブンなどに目を引かれ、それらを探すのも楽しみの一つとなりました。

チボリ公園は、日本では考えられませんが、街のど真ん中にあり、乗り物は、大人向けのアクティブなものから、子供向けのものまでいろいろありました。帰り際に上がった大きな花火は、チボリ公園だけでなく、街全体を盛り上げているようでした。一方、駅やホテルがあった通りは静かで落ち着いていました。



また、歩行者側の道に沢山の自転車が置かれている事などから、デンマークの人は、よく交通手段として自転車を使うことが分かりました。

建物は、デンマークの人の好きな銅で造られているものもあり、10年位経つと緑色に変わるらしいです。他は、レンガや石造りで統一性のある建物が多かつ

たです。日本の首都の東京の建物はコンクリートや鉄で、新しい建物が次々と建っているのに対し、コペンハーゲンは、古くからそこに建っていそうな歴史的な雰囲気を感じることができました。そして、ゴミ箱がよく置かれているなどの便利さも感じられました。



次は、有名な観光地ニューハウンの様子です。ここは、カラフルな家が並ぶ港町で、可愛らしさとヨーロッパらしさを感じました。辺りには歌っている人と、それを聴いている人たちがいて、ここも音楽でにぎわっていました。また、風景写真や家族写真を撮っている人もいて、

和やかな雰囲気もありました。名物のバタークッキーなどを売るワゴンのお店も何台も並んでいました。

このようなことから、自分の目で見てきたことだけにはなりますが、首都「コペンハーゲン」は、少し街中を歩くだけで、デンマークの文化や歴史を感じられる、すてきな観光地だということが分かりました。

デンマークの教育について

登別市立西陵中学校 2 年 滝沢 恵生

僕は、「デンマークの教育」について調べて来ました。自分が教育について調べた理由は、日本の教育とデンマークの教育の違いを知りたかったからです。今回、リングフリー校とノーアエア校の 2 校を訪問して、日本の学校との違いを見つけることができました。

まず一つ目は、クラスの人数です。日本は 30 人程度で、僕のクラスは 40 人であるのに比べ、デンマークでは 20 人程度で、日本の半分程の人数でした。デンマークのように 1 クラスの人数が少ないと、先生が目が一人一人に行きわたって、きめ細かい授業を受けることができると良いと思いました。



二つ目は、支援学級がデンマークにもあるのかということです。調べてみると、デンマークには支援学級は無く、目や耳の不自由な生徒も、発達障害等を持つ生徒も、みんな同じクラスの中にいることがわかりました。そのため、先生は、口を大きく開けて話して内容を伝える等の工夫をしていました。日本の学校には支援学級があり、一人一人に合った授業を受けることができると思いました。



三つ目は、設備の違いです。日本の学校には、廊下にソファはありませんが、デンマークの学校の廊下にはソファがありました。そして、ノーアエア校には、グループワーク専用の教室があり、その教室でパソコンなどを使ってグループワークをしていました。グループワーク専用の教室が日本の中学校にもあると、クラスのみんなと自分の考えを分かち合うことができると良いなと

思いました。また、リングフリー校の音楽室にはギターやバイオリン等、いろいろな楽器が置いてありました。僕は、日本の中学校にもギター等があったら面白いなと思いました。そして、音楽室を始め、各教室には日本と同じような普通の黒板と、パソコンをつなげて使う『電子黒板』がありました。僕の通う西陵中学校では、パソコンをテレビに接続して授業中に使用していますが、デンマークでは、テレビではなく、プロジェクターみたいな物が使われていました。



四つ目は、デンマークの学校には制服が無いということです。全員が私服で、ラフな感じがしました。また、「制服がほしい？」と聞くと、みんな「いらない～～」と言っていました。

五つ目は、授業時間が日本よりも短く感じて「いいなあ」と思ったことです。

僕は今回「デンマークと日本の教育の違い」をテーマに調べてみて、以上5つの違いを見つけました。日本の学校のように、支援学級があれば良いのではないかと思いました。学校の設備的には、日本がデンマークのように充実してくれたら良いのになあと思いました。

デンマークと登別の交流

登別市立緑陽中学校 1 年 樋口 暖日

僕は、「デンマークと登別の交流」について、デンマークで調べてきました。僕は、デンマークに行く前は、国としてのデンマークと登別が交流をしていると思っていました。しかし、ホストのお父さんに聞いてみたら、「デンマークではなくて、リングと登別が交流しているんだよ。」と教えてくれました。



まず、なぜリングと登別市が交流を始めたのかを説明します。リングと登別市は1995年から交流が始まりました。そのきっかけは、皆さんも一度は行ったことがあるマリパークにあるお城です。何城というかわかりますか？正解はニクス城です。「登別が、ニクス城を作るとき、モデルとなったのが、リング近郊にあるイーエスコー城なんだよ。」と、ホストのお父さんは教えてくれました。ニクス城は水族館ですが、イーエスコー城は、実際に人が住んでいるお城です。僕はそのお城に行きましたが、窓から見える景色はとてもきれいでした。イーエスコー城は、ニクス城とは違った迫力があり、圧倒されました。

デンマークと登別の交流のきっかけは、イーエスコー城とニクス城でしたが、その後もデンマークと登別は、市民同士の深い交流を続けてきました。実は、僕のお父さんも25年前、このデンマークの交流事業に参加していました。そして、デンマークの人達の温かさに感動して、自分の子供に行かせたいと言っていたそうです。僕も実際デンマークに行って、デンマークの人たちが、英語の苦手な僕にでもわかりやすい言葉



で話してくれたことや、最初緊張していた僕をサイクリングに誘ってくれたり、たくさん声をかけてくれたりしました。ホストのお母さんは「今日は良い1日を過ごした？」とか「お水いる？」など、僕をととてもよく気遣ってくれました。お

かげで、すぐにリラックスすることができました。



僕は、デンマークと登別の交流が、長く続いてきてくれて良かったです。これからもこの交流が続いていくように、デンマークで感動したことやたくさんの思い出を、友達などに伝え、デンマークのことを知ってもらうことで、デンマークに行きたいと思う人が一人

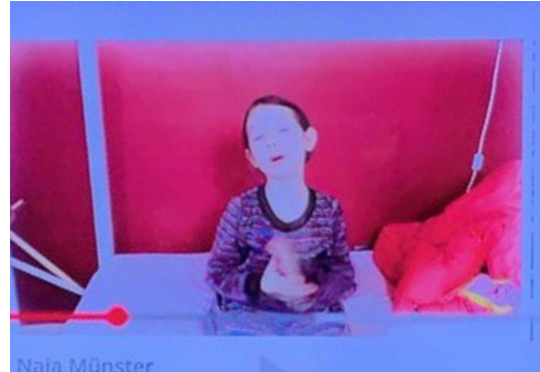
でも多くなるようにしたいです。そうすることで、これからもずっとデンマークと登別の交流が続き、今後もたくさんの人がデンマークに行ってくれるのではないのでしょうか。みなさんも行ってみたいと思いませんか？

デンマークのテレビについて

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 佐藤 杏花音

私はデンマークのテレビについて調べてきました。

デンマークのテレビには、20万人や30万人のファンがいるユーチューバーの密着取材のような番組がありました。とても人気のあるユーチューバーの女の子と男の子が取材されていました。日本では、このようなテレビ番組は無いので



驚きました。取材されていた男の子はロビンという名前のユーチューバーで、私のホストのアンドレアは、彼の妹と一緒にフットボールをしたことがあるそうです。

また、日本と同じように、警察が取り締まっている様子を扱った番組もありました。



コマーシャルは、ホテル予約サイトの「トリバゴ」や「コープ」という名前のスーパーマーケットのものがありませんでした。日本でも「トリバゴ」と「コープ」のコマーシャルがあるので、親近感が湧いてきました。その他には、日本の洗

濯洗剤「アタック」のように、人気がある俳優たちが出ているコマーシャルもありました。

その他には、「ウルトラ」というデンマークのラジオが入っていました。この番組はトーク番組で、ホストのアンドレアが好きな歌手が出ていて、一緒に歌っていました。その歌手のコンサートに行ったそうです。

子供向けのテレビは、ディズニーチャンネルが一般的なようで、夜遅くまでは放送していませんでした。デンマークの人たちは、夜寝る時間が早いので、遅く

まで子供向けのテレビは放送されていないみたいでした。

デンマークのテレビについて教えてもらったので、日本のテレビについても教えました。日本では、大晦日に有名な芸人達が「笑ってはいけない」という番組があって人気だと伝えると、とても笑っていました。また、「紅白歌合戦」のこと



も教えると、デンマークにも似た番組があると教えてくれました。

デンマークのテレビは、ディズニーチャンネルや密着番組が多かったのですが、日本はバラエティ番組が多いと思いました。英語やデンマーク語をもっと勉強して、いつかデンマークのテレビの内容がわかるようになりたいです。

食文化から探る幸福度ナンバーワンの秘密

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 寺沢 美柚

今回の研修では、デンマークの幸福度ナンバーワンの秘密について、食文化の視点から探りながら研修を進めました。

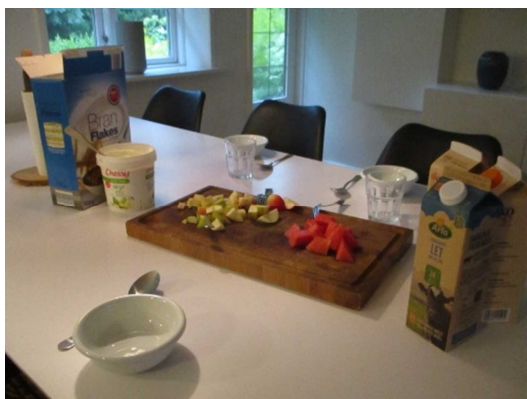
まずは、食べ物そのものについてです。ホストファミリーの家での食事は、ポテトと肉、野菜といった内容が主でしたが、朝は家庭菜園で採れたリンゴとスイカにシリアルとヨーグルトといった感じでした。また、ホストのお父さんが用意して持たせてくれたお弁当には、出発前からよく聞かされていた生のニンジン、キュウリ、ミニトマト、具たくさんのラップサンドが袋の中に詰まっ



ていました。このミニトマトが甘くてすごく美味しかったです。

ホテルや街中での食事は、野菜やフルーツが多かったです。味付けは、塩やオリーブオイル、黒コショウといった簡単なもので、ソースも色々なものがあるわけではなく、グレイビーソースぐらいでした。乳製品や肉、野菜が一般的な食事に主に使われているようです。

次に、食事のマナーについてです。食事をする時は、お客さんから先に自分のお皿に盛るのがマナーのようです。食べ終わった時は、フォークとナイフをお皿の右端にそろえて置いて合図します。



台所は足場が広く、お皿を洗うのは食洗機が全てやってくれます。私のホストファミリーの家に彩希さんが来たときに、おにぎりを作って、デンマークの人たちに食べてもらいました。その時に使わせてもらった電子レンジは、日本のものよりも少し大きいだけなのに、そのワット

数は、なんと1,000W(!)もあって、とてもびっくりしました。

デンマークでは、食事の雰囲気が全体的に楽しい雰囲気でした。ホストファミリーとの食事で、私がフォークとナイフをうまく使いこなせなかった時にも、ホストファミリーのリーバとエマ・ヴィクトリアが、やさしく分かりやすく教えてくれました。そのおかげで安心して食事をすることができました。

私がデンマークで体験したことから、デンマーク人が社会的、福祉的なサポートの充実によって、将来への不安が無いということに加えて、食の充実も幸福度のアップにつながっているのではないかと思いました。いつかまたデンマークへ行き、その時には現地のスーパーマーケット巡りなどもしてみたいです。

今回のデンマークへの派遣は、すごく楽しく、良い経験になりました。



デンマークの建物

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 柳瀬 望琉

私は、「デンマークの建物」について調べてきました。デンマークには、日本と違う石造りの建物やユニークな形の建物が多くありました。その中でも特に印象的だった二つの建物について紹介します。

まずは、イーエスコー城です。このイーエスコー城が登別マリパークのニクス城のモデルになったということもあり、外観のイメージは湧いていたのですが、驚かされたのはその内観でした。城の中には代々使われてきた家具などが展示されていて、それらにも興味を引かれましたが、天井の柱にも目を奪われました。柱の両端に写真のようなS字型の彫刻があり、サイドは1枚の葉を模したようになっていました。細部にまで、このようなこだわりがあるのは、日本の城とも似ている部分のように感じました。



また、他の部屋や家具は、各階ごとに展示の仕方が工夫されていて、特に屋根裏の、おもちゃやアンティークを透明なドームの中に一つ一つ入れて飾っていたのが面白かったです。そのドームの中には、船や電車など、乗り物のおもちゃが多く入っていて、半径10センチメートル位の小さなドームや半径35センチメートル位の大きなドームにいくつかのおもちゃが入っているものなど、ドーム自体のバリエーションも豊富でした。それらのいくつかを1枚のガラス板にはめ込んでいて、その組み合わせもまた面白かったです。



次は、アンデルセン博物館やニューハウンで見た、カラフルな家々です。それらはピンクや水色、白や黄色の家がすきまや凸凹が無く並んでいて、日本には無い独特なものだと思いました。アンデルセン博物館は1階建て、2階建ての小さな家が多かったのですが、ニューハウンでは横幅が狭い分、3階建て、4階建てになっている家が多く、人が生活でき



るスペースと景観を同時に確保できていると思いました。この他にもデンマークには魅力的な建物が多くありました。北欧らしいユニークな形のショッピングセンターやビル、日本には無い石造りの建

物、カラフルな家々…。日本では出会わない刺激だったので、私も実際に建物として取り入れられずとも、インテリアなどで取り入れてみたいと思いました。また、今回はほんの一部しか見られなかったなので、ぜひもう一度デンマークへ行って、他にもたくさんの建物を見てみたいと考えています。

感想文

英語の意味とは

登別市立鷺別中学校 1 年 木下 耕太郎

今回、初の外国旅行となったデンマークへの派遣交流団の他のメンバーとの訪問は、自分の知っている日本の常識が通用しないようなことや出来事がいっぱい、とても驚きました。その中でも一番驚いたことを紹介します。それは、外国人だからといって、皆が皆、英語を完璧に話すという訳ではないということです。

デンマーク人は、小さい子も含めて、母国語であるデンマーク語はもちろん、英語もほぼ理解できるのだろうという考えを自分は持っていました。しかし、ホストステューデントのアルバートとその友達の会話の言語はデンマーク語だったのに、アルバートが



自分たち日本人に話す時は英語だったことや、リングフリー校での朝のプレゼンテーションで、自分達が一人一人英語で発表したあとに、教師のアネ先生が、まだ学校に入ってから間もない生徒達に対してデンマーク語に訳してあげていたことを見て、考え方が変わりました。デンマーク人と日本人の英語に対する考え方は似ているのではないかという考えに、です。日本人同士では日本語を話し、外国人とは、学校で習った外国人と繋ぐ言語の英語でコミュニケーションを図る私たち日本人と同様、デンマーク人も外国人とコミュニケーションを図るために英語という母国語とは別の言語を学校で習い、使う、というところです。英語の文化に早くから触れ、英会話術に長けているのはデンマーク人の方ではあるものの、英語を必要とする理由は、日本人と似ているのではないかと思います。

自分はデンマークでホストファミリーと過ごすことで、他の国の文化に直接



触れただけでなく、自分の英語についての考えまで深めることができました。また、皆でいろいろな施設を見学したり、テーマパークでアトラクションに乗ったりしました。特に、コペンハーゲンのチボリ公園で同じジェットコースターに6回位

繰り返し乗ったことと、人生初の空中ブランコに乗ったことは、とても楽しかったです。このデンマークへの派遣交流は、とても貴重な時間と思い出を僕に与えてくれたと思います。

デンマークで学んだこと

登別市立鷺別中学校 3年 清瀬 栞奈

私は、今回人生で初めて『海外』に行きました。「初めて」ということもあり、行く前は、「英語、通じるかなあ〜。」とか、「ホストの子と仲良くなれるかなあ〜。」とか、たくさんの不安と緊張がありました。しかし、行ってみるとそんなことは無く、とっても楽しめました。



初日、デンマークに到着し、乗り物を降りると、辺りは一目瞭然！建物はカラフルで、人々の格好、会話すらオシャレで、いろいろなところから音楽が聞こえてきて、The ヨーロッパという感じがして、とてもテンションが上がってしまいました。



お店に入り、会計する時も、店員さんの第一声は、発音の良い「Hello！」

私は、英語の発音があまり良くないので、自信無さげに「Hello…」と言い、とても緊張していましたが、店員さんが「Where are you come from？」と気軽に話しかけてくれたので、私は「Japan！」と緊張せず、楽しく答えることができました。そ

して、会計が終わると、買った物を渡しながらか、必ずと言っていいほど「Have a nice day！」と笑顔で言ってくれるので、私は毎回とても幸せな気持ちになりました。

しかし、良いことばかりではありませんでした。

一つ目は、私が毎日見てしまったことです。何気なく歩道を歩いていると3歩に1つくらいのペースでたばこの吸い殻が落ちていたり、通りすがりの人が落としていたり、禁煙の場所でも平気でたばこを吸っている人などもありました。

そのせいか、外の匂いも少しきつく、たばこの苦手な私は、とても嫌な気持ちになりました。

二つ目は、大通りなどの人通りの多い所でも、平気で殴り合いをしている人がいたことです。それを見て、私はそれまでとても楽しく幸せな気持ちでい



たはずなのに、「葉奈、怖い顔してるよ。」と他のメンバーから言われるほど、嫌な気持ちになりました。

このように、私は、デンマークで良いことも悪いこともたくさん知ることができて、良い経験がたくさんできました。私は、この9日間で、たくさんの人の親切さに触れるなど、人間面でもいろいろ学ぶことができました。

私の人生で最高の9日間になりました。

デンマークの感想

登別市立鷺別中学校 3年 宮本 彩希

私がデンマークに到着して、何よりも先に感じたことは、街の外観がとてもお洒落ということでした。駅の柱や屋根の細かいところにまで模様があり、日本では全くもって見られない風景に感動しました。コペンハーゲン等の都会は人目に触れる機会が多いので目立つ外観にしてあるのだと推測しました。しかし、ホストの家に行って、その考えが間違っていたことに気付きました。統一された家具、



たくさんの間接照明など、それらはカタログの写真のように整った家でした。帰国してからもデンマークのインテリアを参考にしていますが、まだまだ再現できません。そのくらい、デンマークのインテリアは魅力的でした。



そして、日本に比べて、デンマークは人との交流が多いと感じました。学校が終わった後、毎日のように友達の家へ遊びに行ったり、家でも一緒にご飯を作ったりしました。日本ではスマートフォンを触ったり、読書や勉強をしたり、一人で過ごすことが多いので

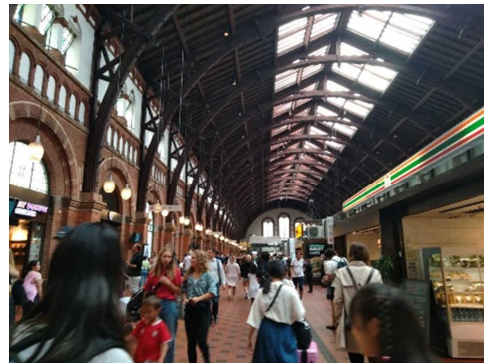
すが、デンマークでは常に誰かと一緒にいた気がします。日本よりも、人と人との距離が近く、フレンドリーなところもデンマークの魅力だと思います。

他にも、デンマークの人たちは、環境にやさしい生活を送っていることをホストの家で学びました。ホストの話によると、なるべくごみを減らすため、ごみの収集やレジ袋が有料だったり、生ごみは家畜に食べてもらうなど、いろいろな対策を講じているそうです。それを聞いて、買い物をした時のレシートを改めて確認すると、レジ袋代が加算されていました。後から調べたところ、デンマークは

環境先進国として世界でも有名な国の一つでした。現在、どこの国でも環境問題は大変深刻なので、デンマークの習慣が世界にもっと広がってほしいと思いました。

また、勉強面に関しても、私は衝撃を受けました。デンマークの中学校の数学は日本の小学校3～4年生で習うようなものでした。夏休みの宿題も無く、進学競争も無いようです。日本は世界に比べてとても勉強熱心なのだと気が付きました。

私がデンマークで学んだこと、感じたことは、まだまだたくさんあります。デンマークで様々なことを体験すると同時に、日本を客観的に見ることができました。今まで当たり前と思っていたことがそうではなかったり、また、その逆もあったりしまし



た。デンマークに行って、異文化にたくさん触れることによって、自分の常識や価値判断の基準が変わりました。私はこれからも異文化に触れる機会を増やし、思考の幅を広げていきたいと思います。

ホームステイ先での経験

登別市立西陵中学校 1 年 船田 清夏

私は、大きな経験となったホームステイ先でのことを紹介したいと思います。
まずは、心配だったことを二つ紹介します。

一つ目は、言葉の違いです。やはり「言いたいことが伝わるか？」という心配がありました。ですが、時間と共に現地の人の英語のしゃべり方に慣れて、事前研修で習った英語とデンマーク語を話すことができました。それにより、ホストファミリーとのコミュニケーションも取ることができました。

二つ目は、生活の違いです。でも実際、日本と全く違って困ったということとは無く、ホストファミリーも、ご飯の時に箸を出してくれるなど、とても優しくしてくれました。

次は、ホームステイした時に感じた日本との違いについて三つ紹介します。

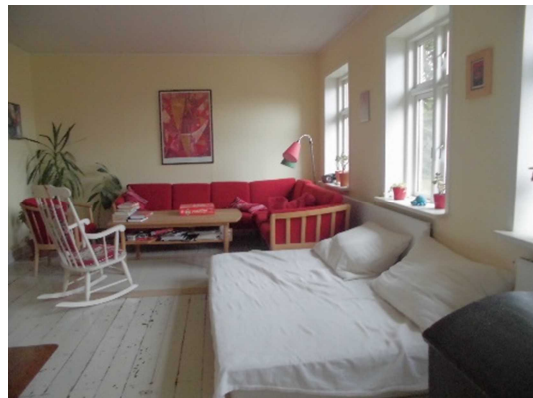
一つ目は、遊びについてです。私のホームステイ先では、主にボードゲームをし、テレビを見たり、電子機器を使ったりすることはしませんでした。私が日本にいる時は、よくテレビを見るなど、電子機器に頼るので、そこが生活の違いなのかと思いました。



二つ目は、家についてです。私がホームステイした家は、レンガのようなもので出来ていて、敷地も広かったので、たくさんの事ができました。例えば、家の中にはアートルームやミュージックルームがあり、アートルームでは一緒に折り紙で紙風船を作ったり、ミュージックルームではピアノなどを一緒に弾けたりと、良い思い出ができました。外にはビニールハウスやツリー

ハウス、卓球台がありました。ビニールハウスではトマトなど色々な作物を育てていて、私もホストファミリーと一緒にじゃがいもを採って食べました。また、卓球台があったことには驚きましたが、後から卓球がイギリス発祥だと知り、ヨーロッパの方でも卓球をよくしていることが分かりました。そして、私のホストの家にはトランポリンがあったのですが、今回の派遣でデンマークへ行ったメンバーと話すと、みんなの滞在した家にもトランポリンがあったと知り、すごいなと思いました。これらは日本の家では珍しい物なので、家を見せてもらった時には、その一つ一つに驚きました。

三つ目は、家の中にある物の違いです。床は、あまりじゅうたんを敷かず、リビングにはテレビが置いてありませんでした。私の家では、各部屋にじゅうたんが敷かれており、リビングにテレビが置かれているので、日本との違いを感じました。



最後に振り返って、今回、「デンマークに行く」という大きな機会があって、さらにホームステイまで出来たというのはすごく貴重なことでした。心配もありましたが、メンバーみんなの助けや現地の人の優しさで心配は消えました。助け合えたメンバーとホストファミリーにはとても感謝しています。私はこの経験を活かして、色んな事を自分なりに頑張っていきたいと思います。

初めての海外、そしてデンマーク

登別市立西陵中学校 2 年 滝沢 恵生

僕が、デンマークを訪れてみて思ったことを紹介します。

一つ目は、デンマークの道路についてです。日本では車は左側通行ですが、デンマークでは右側通行でした。そのため、車に乗る時にちょっと戸惑ってしまいました。「助手席に乗っていいよ。」と言われて、ドアを開けたら、そこは運転席でした。

二つ目は、デンマークの街並みです。ニューハウンの様な、カラフルな建物や、レンガ造りの建物など、日本ではあまり見る事ができない色々な建物がありました。また、オーデンセやコペンハーゲンには、街中にゴミ箱が置いてありました。日本でも、街中にゴミ箱を置けば、ポイ捨ても減るのではないかと思います。



三つ目は、デンマーク人の優しさについてです。チボリ公園で、ジェットコースターの係の人が「コンニチハ」と日本語で挨拶をしてくれたり、レゴランドでポテトを食べて、そのゴミを捨てようとした時、ゴミ箱の周りにたくさんいた虫に脅えていたら、親切なデンマーク人が代わりにゴミを捨ててくれたりと、日本人とはちょっと違う優しさがあり、とても楽しく過ごすことができました。自分もそういう優しい人間になりたいと思いました。



四つ目は、デンマークのリングエという小さな町で、ホームステイができて良かったと思っていることです。ホストファミリーには、農業用のトレーラーに乗せてもらったり、ハンドボールに連れて行ってもらったりと、おかげでとても楽しく過ごせました。また、

学校の授業に参加したり、幼稚園を見学したりと、今回の派遣事業に参加したから体験できることもたくさんあって、本当に良かったです。そして、ホストステューデントやその家族を始め、学校の他の生徒達とも英語を話しながら、ジェスチャーも使ってコミュニケーションを取ることができて面白かったです。もし、次に外国人に会っても、英語でわかりやすくコミュニケーションを取れるように、これからたくさん英語を勉強したいです。

そして、ホストファミリーとは、今後もメール等でやり取りをし、いつかまた自分がデンマークに行った時には再会し、また一緒に、たくさんの思い出を作りたいと思っています。



デンマークに行って楽しかったこと、いろいろ

登別市立緑陽中学校 1 年 樋口 暖日

僕は、デンマークに行って、一番楽しかったことは、ホストの人と一緒にフットサルをしたことです。そもそも、ホストの家にフットサルコートがあって、トランポリンもあるところがすごいと思いました。フットサルは、とても楽しかったけど、ホストの人がとても上手です



ごかったです。トランポリンは、ホストの人がトランポリンの上でバック宙していたのがすごいと思いました。

また、街の建物がとてもカラフルで、歴史がある建物もたくさんあり、とてもびっくりしました。スポーツ施設では、トレーニングをしているところを見たりしました。大きな体育館みたいな所では、バドミントンの選手が練習していました。その中に、オリンピックにも出ている、世界ランキング上位の人がいたというのを、帰って来てから聞かされて、びっくりしました。

イーエスコー城では、たくさんの動物の首やよろいなどがありました。行く前から聞かされていた、動かすとクリスマスにイーエスコー城が沈むという人形を見ました。少し暗い所にあって、顔が見えませんでした。イーエスコー城は、マリンパークには無い、とても大きな池があって、白鳥などがいました。



レゴランドでは、ジェットコースターがたくさんあり、3本くらい乗りました。レゴランドの中に帽子みたいな珍しい形をした“わたあめ屋”がありました。この店のわたあめは、いちご味と普通の味がミックスされていて、とても美味しかったです。途中雨が降ってきたりしたけれど、楽しかったです。

学校の、デンマークと日本の違いは、数学の筆算のしかたです。最初は、どういうやり方なのかわからなかったけど、慣れると日本よりやりやすいと思いました。

チボリ公園は、その入口にぬいぐるみの店がありました。店に入ると大きな機械があり、ケースの中で何かがくるくる回っていました。店員さんに聞いてみると、「ぬいぐるみの中に入れる綿だよ。」と教えてくれました。店の中を見ると、綿が入っているぬいぐるみと、入っていないぬいぐるみの両方がありました。自分で綿を詰めることができるお店は、日本では見たことが無いので、びっくりしました。また、ジェットコースターには7回乗りました。とても楽しかったです。



僕は、デンマークに行って本当に良かったです。特に、ホストファミリーの人と遊んだのが一番楽しかったです。僕は、生きている間にもう一度デンマークに行って、ホストの人たちと、ぜひまた会いたいです。

デンマークで過ごした最高の夏休み

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 佐藤 杏花音

まず、私がデンマークに行って驚いたことを二つ紹介します。

一つ目は、デンマークの家のほとんどの庭にトランポリンが埋められていたことです。普通の家の庭にトランポリンがあることに驚いていた私に、ホストのアンドレアがもっとすごいものを見せてくれました。それは、トランポリンの上で彼女が華麗にバク転をしたことです。とても上手でカッコ良かったです。

二つ目は、トイレの流すボタンです。日本では電動やレバーを奥や手前に引くのが主流ですが、デンマークでは水のタンクの上や壁にボタンが埋め込まれていて、とても驚きました。



次に、私のデンマークでの楽しかったことを紹介します。

デンマーク最後の夜に行った「チボリ公園」という遊園地が一番楽しかったです。中でも、特に印象深いのは、同じジェットコースターに7回も乗ったことです。楽しかったのですが、一つだけ怖かったことがあります。それは、そのジェットコースターの一番後ろの席に乗った時、安全バーがゆるゆるだったことで



す。急降下する度に体が浮かび、とても危険で恐ろしかったです。他には、360°位回転するジェットコースターに乗りました。とても怖かったけれど、楽しかったです。人生初の空中ブランコは、とても高くて怖かったのですが、チボリ公園全体を見渡すことができ、最高でした。いつかまた、デンマークに行ったら、絶対にチボリ公園に行きたいです。

最後に、面白い話を一つ紹介します。写真はイーエスコー城のトイレのサインです。

日本では、どこも同じような真面目なデザインの物が多いですが、イーエスコー城のトイレのサインは、このように、トイレを我慢している男女が描かれていました。このユーモアあふれる看板に、私たちは度胆を抜かれ、全員で指を差して笑いました。これはデンマークでの一番の思い出になりました。

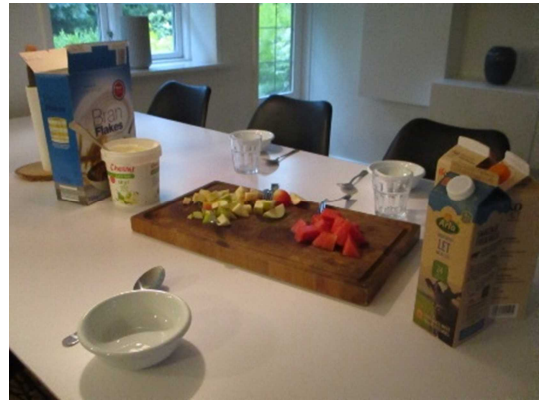


デンマークで知った食文化

北海道登別明日中等教育学校 1 年 寺沢 美柚

今まで、中国に住んだり、東アジアの国々を見てきたり、オーストラリアを旅行したりする中で、世界の食文化に興味を持つようになりました。私は、まだ行ったことの無いヨーロッパに行くことで、見てきた国々の食文化の違いを見つけ、食から見える幸せについて考えたいと思い、デンマーク派遣研修を希望しました。

一緒に過ごしたホストファミリーは、どの人も明るく優しく、すてきな人たちでした。夕飯には、肉とジャガイモを使ったデンマーク料理をいただき、脂身の少ない肉料理から、健康を大切にする食文化に触れることができました。朝食は、ホストファミリーの庭で採れたミニ



トマトやリンゴと、シリアルをヨーグルトに入れ、牛乳とともにいただきました。これも健康を意識した食事で、日本の朝食よりもシンプルな献立でしたが、ホストファミリーのお父さんは「シリアルを入れることでスタミナがつくよ!」と言っており、日本との食の考え方の違いを知りました。驚いたのは、昼食のために



持たせてもらったランチバッグの中身でした、その中身は、生ニンジン、きゅうり、桃とデンマーク料理のラップサンドで、透明のビニール袋に入っていたことでした。弁当箱の中におかずがきれいに並んで入っている日本のお弁当と、袋の

中に食べる物が無造作に入れられているデンマークのお弁当を比べてみて、作ったおかずを大切にし、食べてもらう人の目も楽しませる日本の食文化の素晴らしさを改めて感じることができました。

デンマークは幸福度で世界一になったことがある国です。私は食文化で「幸せ」を感じたならば、それは健康を意識した食事と食材の良さを生かした料理であったと思います。東アジアの国々も「医食同源」を意識し、食事から健康になろうと努めています。デンマークでも同じようなことを感じる事ができました。



これからは、茶道などを通じて日本の食文化やおもてなしの仕方を知り、外国の人に日本の良さを広めていきたいと思います。デンマーク研修に行かせていただいた登別の皆さんに感謝します。

親切な心に触れて

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 柳瀬 望琉

私がデンマークに行って感じたのは、デンマークの人々がとても親切だということです。そう感じた理由は二つあります。

まず、コペンハーゲンでの移動の時です。私たちがどの電車に乗れば良いのか分からなくなったり、道に迷ったりした時、吉井先生が近くにいた現地の方になんてねてくださったのですが、そんな時には、どの人も真摯に聞いて、教えてくれました。そして、私たちでも聞き取れそうなくらいのスピードで丁寧に話してくれました。中には、乗るべき車両まで案内してくれる人もいました。私は、海外の人は親切だけど、あまり丁寧ではないイメージを持っていたのですが、思っていたよりもずっと日本人のレベルに合わせて対応してくれたことが、印象的でした。

次に、ホストファミリーについてです。私と清夏さんがホームステイをしたクヌーセン家では、おみやげに持って行った折り紙や筆ペンと一緒に遊んだり、デンマークのボードゲームを教えてくれたり、温室や畑といった家庭菜園で収穫を体験したりと、家だけでも多くの経験をさせていただきました。また、レゴランドでは、他のホスト達とも一緒だったのですが、雨が降ってきた時は屋根のある場所で順番を待つアトラクションに案内してくれたり、ジェットコースターでの写真を買ってくれたりしました。ホストのみんなが、私たちが楽しめるようにいろいろ考えてくれたことが、これ以上無いほど嬉しかったし、おかげでリングでの 4 日間は大切な思い出になりました。





実際にデンマークに行かないと分からないデンマークの人々の親切心に触れることができたのは、今回の派遣の収穫の中でも、大きなものだったと思います。他にも理由はありますが、

これは私がもう一度デンマークへ行きたいと思う理由の一つとなっています。そして、日本で外国人と交流する時には、彼らのように、親切な対応を心がけたいです。

引率者報告書

令和元年度 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長：登別市総務部総務グループ 土門 和宏

〈派遣日程の経過報告〉

1日目 8月9日（金） コペンハーゲンへ

朝5時過ぎ、市役所駐車場に新千歳空港で合流する団員1名を除いて、皆が集合しバスに乗り込んだ。保護者や校長先生、登別デンマーク協会、企画調整グループ職員の皆さんなどに見送られ、8泊9日の「長い」旅が始まった。自分が初めてのヨーロッパ、初めてのホームステイに少し不安を感じているのとは対照的に、団員達のテンションは高く、どこまでも明るい。

新千歳空港で最後の団員1名と合流し更にテンションを上げ、ANAのチェックインカウンターへ向かった。成田空港までの飛行機の座席は皆固まっていたが、成田空港からコペンハーゲン空港までの飛行機の座席は、残念なことに全員がバラバラの席になっていた。長い11時間30分になりそうだ。

成田空港ではあまり時間が無く、出国手続きやデンマーククローネへの換金をバタバタと行い、コペンハーゲン空港行きのスカンジナビア航空に乗り込んだ。飛行機は満席で通路側でもなかったことから、皆の様子を気軽に見に行くこともできなかった。11時間30分のフライト中、2回の食事をとり、3本の映画と1本のドキュメンタリーを見るも時間を持て余す。新千歳空港からコペンハーゲン空港までの間、長時間のフライトで体調を崩す団員もあり若干不安もあったが、コペンハーゲン空港に到着した途端、これから始まる海外生活への期待から全団員の元気は回復した。

入国審査は、事前研修で英語での受け答えを練習していたが、実際は係員にパスポートを渡すと、「コンニチワ～」と言われながらスタンプを押され、あっけなく終わった。

鉄道の乗り方に戸惑いながら、空港からコペンハーゲン中央駅へ移動した。コペンハーゲン中央駅の歴史を感じる重厚な雰囲気、自分が北欧へ来たことを実感した。宿泊するホテルは駅から直ぐ近く場所にあり、ここも歴史と高級感を醸し出している。

チェックインの後、駅周辺を散策しながら夕食の場所を探す。デンマークでの初めての食事は日本では珍しいメキシコ料理のビュッフェとした。外からチボリ公園などを見つつホテルに戻り深い眠りについた。日本との7時間の時差もあり、とても長い1日だったが、団員達は朝方まで盛り上がっていたようだ。



2日目 8月10日(土) オーデンセ観光、リングヘ

ホテルでの朝食はbuffetスタイルだったが、パン、チーズ、サラダ、フルーツ・・・すべてがおいしく驚く。贅沢な朝のひとときを過ごした後、9時過ぎにホテルをチェックアウトしコペンハーゲン中央駅へ向かった。鉄道でオーデンセ駅に移動するが、風景を楽しんだり、席が隣になった外国人と交流したりと移動の1時間20分はあっという間に過ぎた。



オーデンセ駅に着くと、短い停車時間の間にキャリーケースを列車から下ろすことに必死だった。苦勞していると現地の方がすごく手伝ってくれる。全部のキャリーケースを列車から下ろし、手伝ってくれた方にお礼を言おうとすると、その人は私たちの滞在中、色々とお手伝いしていただくリングフリー校のアネ・ヘルストラップさんと7学年の生徒、ホストファミリーの皆さんだった。

ホストファミリーの皆さんに荷物を預け、アネさん、生徒の皆さんとオーデンセ市内の見学に出かけた。昼食にサーモンのサンドイッチを食べるがとてもおいしい。デンマークでの食事は、この後ホストファミリー宅での食事でも外食でも何もかも美味しく最後まで幸せだった。ただし、ラクリスというグミのようなお菓子だけは・・・。

オーデンセは、デンマークを代表する童話作家であるアンデルセンが生まれた町だ。

博物館までの道路には、アンデルセンがいかに背が高く足が大きかったかが分かるよう、実寸大の靴あとが描かれているなどの工夫もあり、きれいな町並みや公園を楽しく散策することができた。アネさんの説明を吉井先生が訳してくれたおかげで、とても興味深い話を沢山聞くことができた。博物館には何やら不気味な切り絵が沢山飾られており、独特の雰囲気が漂っていたが、帰国後、切り絵はアンデルセンが創作した作品のレ



プリカだったと分かった。そのほか、貧しい生活を送った小さな生家や執筆部屋などを見学し、いよいよホームステイ先となるリングの町に向かう。移動の途中、一緒に見学してくれていたリングフリー校の生徒からラクリスをお裾分けしてもらう・・・。団員から正直に「日本人には苦手な味」と伝え、とても驚かれた。

リングはオーデンセから列車で15分ほどののどかな町で、私たちが到着した時は小雨が降っていた。ファボー・ミッドフュン登別友好協会のリズィ・サンダー会長をはじめ、ホストファミリーの皆さんが駅で待っていてくれて暖かな歓迎を受けた。

と思っていると、状況もよく分からないまま、あっという間に、皆、それぞれのホス

トファミリーに連れられて行ってしまった。

私、吉井先生、市民サポーターの福岡さんの大人3人も、ホストファミリーのソレンとエリンに連れられ、これからお世話になる家に向かった。リングエの街並みは、いかにも北欧の住宅街といった落ち着いた風情で、デンマークの人たちは花が大好きということもあり、玄関先や庭が花や木で彩られている。私たちを送るブジョーのマニュアル車は住宅街から少し離れた郊外の大きな家の前で停まった。

ホストファミリーは、ご主人のソレン、奥さんのエリン、長女のカトリーヌ、長男のアレクサンダー、次女のエマ、三女のヨセフィーヌの6人家族で、私たちが滞在中は、カトリーヌとアレクサンダーが居間で寝起きし、エマが今回ホストファミリーとなっている友達宅に泊まり、それぞれの部屋を空けて貸してくれた。

その日は、ハンバーグに似たデンマークの家庭料理、フリカデラをワインといただきながら、デンマークのことなどを楽しく談笑した。吉井先生と福岡さんは英語が堪能であり、英語が話せないのは自分だけだ。海外でコミュニケーションを取るには英語というツールが重要であることを改めて痛感した。

3日目 8月11日（日） ショッピングセンターと海辺の公園

今日は日曜日。予定表では、「終日ホストファミリーと過ごす」となっていたが、皆でショッピングモールに行くことになった。チーズを薄く削ぎパンにのせていただく。ホストファミリー宅では、コーヒーは1杯毎に豆をひき淹れるコンビニのコーヒーメーカーのような機器を使っていた。パンもコーヒーもとても美味しい。

朝食の後、ホストファミリーと車でショッピングモールへ向かう。ショッピングモールは広大な敷地に平屋で建っており、日本のショッピングモールよりかなり大きい。

一晩、ホストファミリー宅で過ごした団員が次々とホストファミリーに連れられて集まってきた。体調の悪そうな団員はおらず、それぞれ昨日のホストファミリー宅での出来事を報告しあう。

それぞれホストファミリーとショッピングモールの雑貨屋や土産物屋などを見て回った。雑貨屋は有名なフライングタイガーなどお洒落な北欧デザインの雑貨が並ぶ。土産物屋にはどこも沢山の国旗をモチーフとしたお土産がある。デンマークの人達は国旗が大好きなようで、街のあちこちに国旗や国旗をあしらったデザインがあふれている。

この日はショッピングモール内のフードコートで、タイ料理の焼き鳥やチャーハン、焼きそばに似た料理をいただいたが、日本ではあまりなじみの無い「量り売り」だった。



昼食を終えどこかに移動するらしかったが、いまいち状況が分からないまま、ホストファミリーの車に乗り込み、着いた場所は、海水浴場と広場のある公園だった。既に到



着していた団員もおり公園の遊具などで遊んでいた。団員、ホストファミリーも揃い、日本の生徒、デンマークの生徒が入り交じって、広い芝生でサッカーをして楽しんだ。

突然、広場の一角で大道芸が始まり皆で鑑賞したり、クラゲが沢山いる海水浴場を散策したりしながら夕方まで過ごし、それぞれのホームステイ先に帰った。

4日目 8月12日（月） 施設視察、リングフリー校の始業式

今日からリングフリー校の新しい学期が始まる始業式の日だ。始業式の日には午後3時頃に生徒と保護者が集まり、ピクニックのようなことをするらしいが、イメージが湧かない。

スケジュールでは、朝、青年団でお手伝いをする事になっている。皆、ホストファミリーに連れられて、リングフリー校に集合しアネさんに迎えられた。とは言っても初めは、連れてこられた建物がリングフリー校だとは気がつかなかった。広い敷地に平屋の建物がいくつか並び、中庭も広く開放的で学校と思わなかったからだ。

談話室のようなスペースの一角に折り紙が置かれており、ホストファミリーのリングフリー校生も加わり、皆で鶴を折った。鶴をとて小さく5mmくらいに折ることができる団員もあり、日本人の自分も驚いたが、がに股の足がついた気色悪い(?)鶴を折る団員もあり、それにも驚いた。折った鶴は後でホールに飾られていたが、がに股の鶴もしっかり飾られていた。

外で遊んでいる団員もあり、皆で手を繋いだりして何やら遊んでいる。どうやらデンマークの遊びを教えてもらっているようだ。

ファボー・ミッドフュン登別友好協会のリズィさんも来て、古いアルバムを見せてくれた。これまでのホームステイ交流や自分が登別市に行ったときの写真がまとめられており、リングと登別市が積み上げてきた交流の歴史を改めて感じた。

アネさんに連れられて、団員とリングフリー校の生徒とファボー・ミッドフュン市役所に向かう。石畳とレンガ造りの街並みやきれいに手入れされた公園（実は墓地）を楽しみながら歩き、市役所に到着した。

自分で車を運転してきたリズィさんと合流し、ホールへ案内された。ファボー・ミッドフュン市長から歓迎の言葉をいただき、登別市長からの親書とお土産を渡した。ファ

ボー・ミッドフン市長からも親書と団員+へお土産のバスタオルをいただいた。

市役所を後にし、次は老人ホームへと向かった。平屋の老人ホームは日本の施設よりも一部屋、一部屋がとても大きく、台所なども配置されていることから普通の家にお邪魔したような感覚だ。それぞれのユニット毎にリビングのようなくつろぐスペースがあり、入居者の皆さんが談笑していた。皆さん、とても明るく、ここにも幸福度世界1位の一端を見ることができた。

次は幼稚園へ向かった。ここも平屋の建物で、中庭にでると日本とはちょっと違う印象の広場が広がっていた。小山や砂場、隠れ場所のような小屋などが並ぶ。

ここで昼食を食べることとなった。リング滞在中は、それぞれのホストファミリーが用意してくれた昼食をいただくこととなっている。私たち大人にも用意してくれており、色々な具材を挟んだサンドに、プラム、パックに入ったジュースなどを厚手の透明ビニールに入れて渡されていた。周りを見渡すと透明ビニール以外にも様々な容器があり、プラスチックの弁当箱（商品名 BENTO で売っていた。）だったり、タッパウエアに団員の名前を書いてもらったりしていた。昼食に生のニンジンが定番らしく、複数の団員に入っている。生のニンジンが苦手な他の人に食べてもらっている団員もいたが、皆、美味しく昼食をいただいた。



リングフリー校に戻り、団員達は7学年の教室で生徒と一緒にホームルームのような授業を受けた後、皆で中庭で遊んでいたが、生徒も保護者も体育館に移動を始めた。

中では、皆が手を繋ぎフォークダンスのような踊りを楽しんでいる。既に沢山の団員も混じっており、見よう見まねで踊っている。ふと見ると吉井先生が嫌がるソレンさんを誘い踊りに混じっていた。



何種類かの踊りで大いに盛り上がったところで、中庭に移動し外での食事が始まった。それぞれの家庭で用意してきた食事のほか、持ち寄ったケーキなどもいただいた。天気の良いなかで、芝生にレジャーシートを広げていただく食事はとても美味しかった。全校生徒と保護者が中庭でピクニックする光景は壮観だった。

5日目 8月13日（火） 学校での授業、イーエスコー城見学

朝、リングフリー校の全校生徒が集まる「朝の集会」に参加する。その日歌う曲の歌詞がスクリーンに映し出されているが、分厚い歌詞が書かれた本を見ている生徒もいる。ピアノの生演奏で皆で歌うが、とても厳かな心地よい雰囲気が流れる。私たちを歓迎してだと思うが「さくら」も歌われる。

いよいよ私たちのプレゼンテーションの時間となる。おそらく一番緊張しているのは私だ。事前研修で「オリンピック・ゲーム」の発音に超ダメ出しをされている。団員達のプレゼンテーションがどんどん進み、終わった団員から安堵の表情に変わっていく。事前練習の成果から、皆、とても上手だ。最後に私の番となったが、団員達が「オリンピック・ゲーム」に期待しているのがひしひしと伝わる。結果はとても上手に発音できて大成功だった。誰がなんと言おうとも。



プレゼンテーションの後に、「パプリカ」を踊り、その後「上を向いて歩こう」を団員のピアノ演奏で歌ったが、デンマークの人達は歌と踊りが大好きなのが伝わってくる。「上を向いて歩こう」は大変好評で、リクエストを受けて翌日の「朝の集会」、「お別れパーティ」でもピアノ演奏と歌を披露することとなった。1回は「SUKIYAKI」バージョンでデンマークの皆さんと一緒に合唱した。ピアノ演

奏の団員は初め不安そうだったが、素晴らしい演奏を披露した。

「朝の集会」が終わり、なんとドイツ語の授業を7学年生と一緒に受ける。本に書かれた絵を見ながら簡単な単語を学んだ。

団員達が次の数学の授業を受けている間、大人3人は体育館を見学させてもらった。地元の方などがスポーツを学びに来ており、エアロビクスのような運動を行っていた。体育館は2つあり、奥の体育館には体操競技を行う設備のほかトランポリンなども設置されていた。こちらではトランポリンはメジャーな競技、娯楽のようで家庭や公園などあちこちで見かけた。

吉井先生とトランポリンを楽しんだ後、団員と7学年生、先生と近隣の公立校ノーアエア校を訪問した。ノーアエア校ではグループワークに参加させてもらい「デンマークと日本の学校の違い」などをテーマに、少人数のグループに分かれ話し合いをした。デンマークの生徒も英語の能力はさほど高くなく、意思疎通に苦労しているようだったが、翻訳ソフトを駆使してなんとか話を進めているグループも見受けられた。



ノーアエア校の後、各ホストファミリーの車でマリnparkニクス城のモデルとなったイーエスコ城の見学へ出かけた。あいにく小雨が降る中での見学となったが、とても広い敷地にハーブガーデンや生け垣の迷路、アスレチック、車の博物館などが並ぶ。

奥にあるイーエスコ城は池の上に建っており、マリnparkニクス城によく似ているものの歴史を重ねた重厚感やはり本物にしか無い。中に入ると高い天井の部屋に甲冑や骨董品などが並ぶ。屋根裏部屋にある「動かすとクリスマスに城が沈む」と言い伝えられている人形などを見学したあと、大人は散策を生徒はアスレチックなどを楽しんだ。



イーエスコ城見学の後、団員達はホストファミリー宅に帰宅したが、私と吉井先生、福岡さんは、リズィさんのお宅に寄らせていただいた。

リズィさんのお宅は、高齢者の皆さんが集まって暮らす「シニアハウス」にあった。「シニアハウス」と言っても住んでいる高齢者の皆さんは自立した生活を送っており、長屋のような造りになっている。玄関の石畳には「春・夏・秋・冬」と刻まれた石が埋めこれている。お宅はバリアフリーになっており、コンパクトながらもリビングには大きな窓、外にはテラスがあり開放的で明るい印象だ。

デンマークでの生活などについて、いろいろお話を伺うことができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

6日目 8月14日(水) レゴランド、お別れの会

この日はリンゲフリー校の「朝の集会」に参加した後、団員と7学年の生徒、アネさんは貸し切りバスでレゴランドへ向かった。バスで片道1時間30分かかる。バスの中では夏休みの宿題をする団員も見受けられる。聞くと勉強道具を持っては来たが、この日までやる暇が無かったとのことだ。



レゴランドは入場券を買うにも行列ができており、とても人気があるようだ。団員と7学年の生徒は入って直ぐに、ジェットコースターなどの乗り物があるエリアに消えていった。あいにく雨が時折降る天気で、満足いくほど乗り物には乗れなかったようで、団員達はこの不満を翌日のチボリ公園の遊園地にぶつけることとなった。

レゴランドは乗り物だけではなく、レゴで作られた精巧なミニチュアのコペンハーゲンの街並みや飛行場、等身大の人形など見るだけでも楽しめるテーマパークになっていて、海外からの観光客も多く訪れていた。

お土産などを買い込んでいるとあっという間に帰る時間となり、またバスでリングフリー校へと戻った。

リングフリー校でのお別れの会では、7学年の生徒と家族、友好協会の会員の皆さんが自宅から料理を持ち寄った食事会から始まった。色々なデンマーク料理が並んだが、どれもとても美味しかった。

食事が終わったくらいの時間で、団員はホールへ集合した。お別れのアトラクション、「U. S. A.」のダンスと「リメンバーミー」の唄を披露する準備と最後の練習を行う。

食事を終えた皆さんもホールに集まり、お別れのアトラクションが始まった。

「U. S. A.」も「リメンバーミー」も大盛況のうちに終え、最後は「鬼踊り」を皆で踊った。

アトラクションの披露が終わり、リズィさんから登別デンマーク協会の文化交流事業で登別市に招待されている研修生ルイス・ランゲール・ビーターセンさんを紹介していただいた。

ホールに突然、季節外れのサンタクロースが現れ、団員と7学年の生徒にプレゼントを配ってくれた。

お別れの時が近づき、団員も7学年の生徒も自然と感情があふれ、目から涙がこぼれ出し、別れを惜しんだ。



7日目 8月15日（木） リングから出発、コペンハーゲン観光

仕事や学校へ向かうホストファミリーとお別れの挨拶をし、リング駅に送ってもらった。団員もホストファミリーと一緒に次々と集まってくる。

それぞれ別れを惜しみ、みんなで写真を撮ったりハグしたりしている。



団員と見送りのホストファミリーがホームに移動してからは、涙に拍車がかかる。列車に乗り込む頃には、号泣する団員も多く列車の中は悲しみに包まれた。列車が動き出すと、まるで映画のように手を振りながら追ってくる少年がいる。感動的な場面であったが、女子の団員としては別のお気に入りの少

年にやって欲しかったと涙ながらに訴えていた。

オーデンセ駅に着く頃には落ち着きを取り戻し、事前研修で教えてもらっていた「有料トイレ」を試してみたりして、コペンハーゲンまでの列車を待った。

コペンハーゲンまでの列車の席は来たときの席よりも豪華な指定席で、ゆったりと過ごすことができた。約1時間30分でコペンハーゲン駅に到着した。

ホテルは来たときと同じホテルなのでスムーズに移動する。キャリーケースをホテルに預け、今日の行程をサポートしてくれるヤエスとランチに出かけた。

ヤエスは、日本に滞在していたこともある青年でとても誠実な人柄なのを感じた。自分が日本で滞在中に受けた恩を返したいという思いがあり、私たちにもとても親身に接してくれていた。

ホテルの前に着いた貸し切りバスに乗り、様々な競技のデンマーク代表や代表候補が練習するスポーツ施設ブレンビュハレンに向かった。コペンハーゲンの少し郊外にあるこの施設には、サッカー専用スタジアムや練習グラウンド、選手やコーチが宿泊できる施設、トレーニングルーム、大きな体育館などが集められている。



施設の担当者に施設を案内していただいたが、バドミントンナショナルチームの練習などを見ることができた。後で調べると世界4位のアンダー・アントンセン選手もその練習に参加していたようだ。

ホテルに戻りチェックインを済ませたあと、ヤエスの案内でコペンハーゲン市内の観光に出かけた。

目的地はニューハウンド、そこまで経路にある王立劇場や宮殿など見ながら散策した。コペンハーゲンの街並みを満喫することができたが、団員達の心は既にチボリ公園の遊園地に行っている。まだ着かないのかという団員からの圧力を背中に感じながら、ニューハウンドに到着した。



ニューハウンドは運河沿いに色とりどりの3階、4階建ての建物が並ぶ美しい観光地だ。皆、運河や建物をバックに写真を撮る。観光客が沢山おり、遊覧船も運河を航行している。

コペンハーゲン駅の近くで中華料理を食べたあと、いよいよお待ちかねのチボリ公園へ向かう。チボリ公園の前で、ヤエスに団員全員で「Tak!」とお礼してお別れした。

既に日が落ちて薄暗くなり始めているが、多くの人達がチボリ公園の入場に列をつくっている。公園の中は、沢山の人が散策したり食事を楽しんでいる。至る所が電飾

で彩られており、幻想的な雰囲気の通路を歩いて行くと、遊園地のゾーンが見えてきた。閉園まで2時間30分くらいだったが、迷わず乗り放題のチケットを購入した。

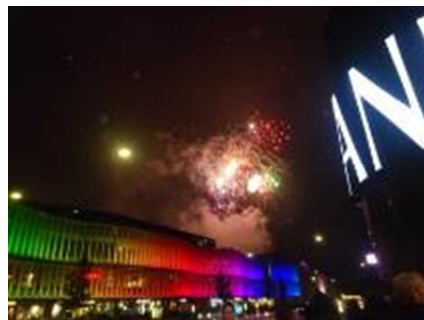
遊園地の乗り物から、団員達の日本語の大きな悲鳴や歓声が辺り一帯に響く。一つ終わると次の乗り物に走って移動するが、並ぶことがほとんどないので凄い勢いで乗り物を制覇していく。

最後は同じジェットコースターを繰り返し乗る。このジェットコースターは乗っている時のフォトを買うことができるが、サンプルをモニターで確認すると、皆、大興奮していることがわかる。この興奮が、悲しいハプニングへと繋がった。

団員の1人が、ポケットに入れていたスマホを紛失した。状況から繰り返し乗っていたジェットコースターが怪しかった。係員に状況を伝え探してみたが、コースのどこかに飛んでいってしまったのか見つからない。

スマホを無くした団員は、吉井先生に助けを求めチボリ公園のサービスセンターに相談し、閉園の時間も迫っていたことから他の団員はホテルに戻ることにした。

ホテルに戻る途中、チボリ公園が閉園の時間となり花火が打ち上がり始めた。団員と街角から見えていたが、街のど真ん中で花火が連発で上がる光景はとてもきれいだった。後から聞くと、チボリ公園に残った団員と吉井先生は花火が上がっている真下でスマホを探していたそうだ。(結局、スマホは見つからなかった。)



ホテルに戻ると23時を過ぎており、内容の濃い1日だったことから、私と吉井先生は直ぐに深い眠りについたが、団員達はどうやら朝方までコペンハーゲンの夜を堪能したようだ。

8日目 8月16日(金) 日本へ

ホテルの美味しい朝食を食べた後、帰り支度をする。団員達は、来たときよりも荷物が増えていて荷造りがなかなか終わらなかった。列車に乗ることには慣れてきて、



スムーズに移動できるようになった。

コペンハーゲン空港でチェックインしキャリーケースを預け、スターバックスで楽しかった思い出などを振り返り談笑しながら時間を待つ。

手荷物検査を終えると、そこに免税店が広がっていた。出国手続きをしていないのでは?と思っ

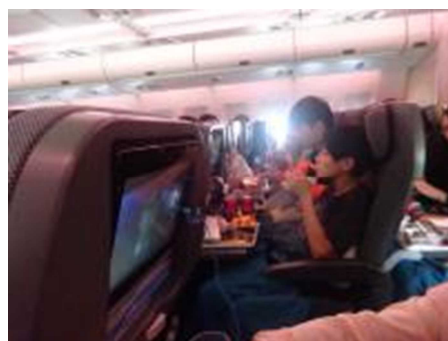
たが、入国手続きの簡単さからこんなものかと納得してしまった。

余裕を持った時間で集合時間を決め、それぞれ免税店で買い物を楽しむ。ここまで来て円をデンマーククローネに両替する団員もいた。

さて、飛行機に搭乗しようかと歩いて行くと長蛇の列が見えてきた。出国手続きの列だ。なんと、出国手続きは免税店の先にあり、しかも窓口が2つくらいしかない。周りにも飛行機の出発時間に間に合わず慌てる客が続出している。私たちの出発時間も刻一刻と近づき、吉井先生が係員に間に合うか確認してくれるも「夏のコペンハーゲン空港はいつもこんなもの。搭乗しなければ飛行機は飛ばないから大丈夫。」と軽い返答が帰ってくる。

いよいよやばくないかという時に、係員が小さな声で「成田行きの飛行機に乗る方はいないか。」とアナウンスを行ったので、慌てて申し出ると列の前に割り込ませた。出国手続きのキャパが全く追いついていない。走って搭乗口に行くと時間に遅れていることをスキャンナビア航空の職員に注意され、機内に乗り込んだ。どうやら私たちが最後の乗客だったようだ。

帰りは成田まで実時間で10時間50分の旅になる。今回は団員が皆固まった席だったので安心感があった。疲れていたせいか、とても長い時間寝てしまい、行きの時と違いあまり暇を持て余さなかった。



9日目 8月17日（土） 無事帰宅

成田空港に到着し入国審査を終えた後、デンマーククローネを円に両替する。団費は現金で支払うようにしていたが、自分の支払いは全てカード払いだった。念のため両替していた自分のお小遣いはほとんど使われず、手数料を取られて目減りし円に戻った。

新千歳空港行きの飛行機まで時間があつたので自由行動とし、それぞれショッピングと昼食を楽しんだ。昼食ではおにぎりなどの日本食を楽しむ団員も多かった。

新千歳空港に到着すると、企画調整グループの担当者と新千歳空港で別れる団員の保護者が迎えてくれた。1人の団員とここで別れ、他の団員はバスに乗り込む。疲れを見せることも無く、デンマークでの出来事を楽しく話しながら登別市役所に戻った。

登別市役所では保護者や市職員に出迎えていただいた。団員達に病気や怪我、大きな事件も無く戻ってこれたことに安堵し、8泊9日の「短い」旅はあっという間に終わってしまった。

派遣研修を終えて

参加した団員の誰もが「もう一度デンマークへ行きたい。もっとデンマークのことを知りたい。ホストファミリーのみんなに会いたい。」と話していることに、この交流事業の意義と成果を強く感じました。デンマークでのホストファミリーや同年代の生徒、交流協会の皆さんとの交流が、団員達の心に色々なことをもたらしたことと思います。デンマークの皆さんが持つ「おもてなしの心」は、私たちに心地よい充実した時間を与えてくれました。

団員達は、海外の人達と交流する素晴らしさを肌で感じたことで、これからも海外の生活や文化に興味を持つことになったと思います。そして、海外の人達とコミュニケーションをとるためには、英語を話せることが必要なことも実感したことでしょう。

これから団員達が、国際的な広い視点を持ちながら沢山の経験を積み、大きく成長していくことが楽しみです。

そして、この「登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業」が、中学生の豊かな人間性と広い視野を育む事業として、また、登別市とファボー・ミッドフュン市、リングの友好交流を深める事業として、これからも実施されることを期待しています。

また、この派遣交流事業の終了後に、ファボー・ミッドフュン登別友好協会 会長 リズィ・サンダー様、登別デンマーク協会会長 上田 俊朗様が、お二人同時に北海道社会貢献賞を、更にリズィ・サンダー様が登別市功労者表彰を受賞されたことは大変喜ばしく思い心よりお祝い申し上げます。

最後に、7月の派遣交流団の結団式から、事前研修・事後研修、そして本番の海外派遣、10月の帰国報告会と約3ヶ月間、多大なご尽力をしてくださった企画調整グループの皆様、一緒に団員を引率していただいた吉井先生、市民サポーターとしてご助力いただいた福岡さん、その他この派遣交流事業を支えてくれた全ての皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。



人生を豊かにする教育

登別市立西陵中学校 吉井 真裕

教員になって 20 年。子どもたちにたくさんの情報を与え、覚えさせテストする。この日本の教育は子供たちを幸せにしているのだろうか？そんな疑問をいまだに感じることも少なくありません。

今回のデンマーク派遣交流事業に引率者として参加させていただき、特に感じたことはデンマークの豊かさ、とりわけ「教育の豊かさ」でした。「教育は誰のため？」「教育は何のため？」の問いに「子どもたちのためのもの」、「人生を豊かにするためのもの」と自然と答えられるそんな学びの場がデンマークの学校にはありました。

訪問団を受け入れてくれたリングフリー校は、幼稚園児から中学生が主に学ぶ比較的小さな学校でした。毎朝、全校生徒が音楽室に集い、皆で歌うことから 1 日が始まります。大きな声で歌いたい子、またそうでない子など様々でしたが、歌そのものを楽しみながら皆自分が心地よいと感じる声量で自然に歌っていました。子どもたちが朝から気持ちよく 1 日をスタートできるそんな雰囲気を感じました。また、訪問団の団員は現地の中学 1 年生（7 年生）の実際の授業にも参加させていただきました。英語の授業では「お互いを知る・受け入れる」ということを目的として、自己紹介をお互い英語でする授業でした。英語が母国語ではないデンマークの子どもたちも、登別からの訪問団の中学生もたどたどしい英語ではあるけれど、ゆったりとした穏やか雰囲気の中、気分良く英語を使っていました。言葉を使うことの意味を英語教師である私自身、再認識することができました。数学の授業では、日常の生活に結びついた数学の課題を、皆で一緒に考え、数学が苦手だと思われる子どもが、得意な子どもに教えてもらいながら学んでいました。訪問団の日本の子どもたちも一生懸命デンマークの子供に教えようとしていたのが印象的でした。そこには、「数学の問題が出来るようになる」ことよりも「考える」ということが大切にされていることを感じました。

リングフリー校の生徒達と私たち訪問団が訪れた現地の公立校、ノーアエア校では、今デンマークの学校が力を入れているグループワークを体験することができました。グループワークが効果的に行われるような造りをした専用のグループワークルームが何室もあり、一つのテーマについて数人のグループで話し合い、考えをまとめ発表する授業です。その日のテーマは「日本の中学生の生活とデンマークの中学生の生活との相違点、類似点を発見しよう」というものでした。お互いたどたどしい英語でしたが、スマートフォンの辞書機能などを駆使しながら皆で四苦八苦しながら対話を続けていました。「無理」とあきらめる者も、一方的に話し続ける者もそこにはいませんでした。それは一つの正しい答えを出すことが目的でも、高い点数をとることが目的でもなかったからではないかと私は思いました。「皆で一緒に考えること自体が楽しい」そんな、「学ぶこと自体が楽しい」という素敵な経験を子どもたちは日々の学校生活ですることが出来ているように感じました。

「そんなのんきな学習では世界の競争に勝つことができない」という思いも私自身の中で無いわけではないのですが、「本当にそうだろうか？」「じゃあ、この 30 年、日本は勝ててきたのだろうか？」と疑ってみることも必要だと思いました。その証拠に、デンマークでは中学から 6 年間英語を学ぶ中で、ある程度自由に英語を使えるようになっている事実があります。もしかしたら英語とデンマーク語の類似

性があるのかもしれません。しかし、デンマークの子もたちが中学1年生の段階では、今回訪問した日本の訪問団の生徒とあまり英語力が変わらないことから考えると、私たちの教育への発想を転換する時期なのかもしれません。

「学ぶこと自体が楽しいと思える授業」「子どもの人生を豊かにする教育」を行なっていかなければと痛感しました。

家庭教育でも見習うことがありました。私のホームステイ先には中学生の女の子と高校生の男の子がいましたが、彼らは夜9時になるともう寝る時間です。高校生の男の子は携帯電話を8時で没収されていました。中学生の女の子は自分の携帯電話すら持たせてもらっていません。毎日たっぷり9時間以上寝て学校に行く毎日でした。これは私のホストファミリーだけの話ではなく、今回訪問団がホームステイした家庭に共通のことだったようです。何が子どもにとって大切なのかの本質を大人が真剣に考えている結果なのではないでしょうか。

「子どものための教育とは何か」「人生を豊かにする教育」について考えさせてくれた今回の派遣事業は、私にとって大変貴重なすばらしい経験となりました。私を含め訪問団が日本とは異なるデンマークの人と文化をこのように体験することが出来たのは、これまで長い間、登別市とファボーミッドフュン市との友好交流が続いてきたからにほかなりません。両市の交流にご尽力されてきた方々に感謝の思いでいっぱいです。今回、このような貴重な体験をさせて下さった小笠原春一市長、武田博教育長をはじめ、事前・事後研修において多大なご尽力を下さった企画調整グループの方々、そして、私を含め団員を優しく包み込むように接して下さいました土門団長に深く感謝申し上げます。今回の経験を活かし、日本の未来を担う子供たちの教育に微力ながら貢献していきたいという思いが一層強くなりました。ありがとうございました。

帰国報告会資料 (派遣生徒)

帰国報告会



2019年度デンマーク友好都市中学生派遣交流事業

登別市立鷺別中学校1年の、木下耕太郎です。

これから、私たち派遣団がデンマークで調べてきた、それぞれの「研修テーマ」について発表します。●

日本とデンマークの生活の違い



鷺別中学校 1年

木下 耕太郎

今回僕は、「日本とデンマークの生活の違い」について、ホストファミリーと過ごす中で調べてきました。すると、日本では見られないようなデンマークの人々の様子が次々と浮かび上がってきました。●

1. 学校の靴の違い



日本の学校



靴を履き替える



デンマークの学校



靴を履き替えない

・日本の学校・・・玄関で上靴に履き替えて生活する。

長所・・・床などの清潔さを保てる。

・デンマークの学校・・・玄関で上靴に履き替えたりせずに生活する。

長所・・・いろいろな出入り口から自由に出入りができる。

まずは、「学校の靴」についてです。日本の学校の外では「外靴」、中では「上靴」というように、靴を場所ごとに履き替える生活をしています。しかし、デンマークの学校では、基本的に靴を履き替えずに、外靴のままで生活し、外靴で入れない所では、上靴などは無いため、靴下で中に入ります。自分が思うそれぞれの利点は、上靴がある場合は、床などの清潔さを保てるということ、上靴がない場合は、そこに上靴がある必要が無いので、いろいろな出入口から自由に出入りできるということです。●

2. リビングの照らし方の違い



日本のリビング



デンマークのリビング

・日本のリビング・・・照明でリビングを照らして過ごす。

→明るさを調節したり、スリープタイマーをかけたりできる。

・デンマークのリビング・・・照明ではなく蝋燭を灯して過ごす。

→夜、暗くなるときれいでとても幻想的。

次に、「夜のリビングの明かり」についてです。日本では、ほとんどの家庭が照明でリビングを照らして夜を過ごしています。また、最近では、明るさを細かく調節したり、スリープタイマーをかけたりできる照明も増えてきました。それに対して、僕のホストファミリーの家のリビングでは、テーブルに何本かの蝋燭を置き、その火で室内を照らして過ごしていました。外が完全に真っ暗になると、それらの蝋燭の火だけが唯一の明かりとなり、とても幻想的でした。●

3. 入浴の違い



日本の浴室



デンマークの浴室

- ・日本の浴室・・・シャワーとバスタブがある。

- 身体を洗った後に、ゆっくり湯に浸ることができる。

- ・デンマークの浴室・・・バスタブはなく、シャワーしかない。

- 水を無駄にしない

- あまり部屋のスペースを取らない。

次に「お風呂」についてです。日本では浴室にシャワーとバスタブがあり、身体を洗った後、湯に浸かることができますが、デンマークにはバスタブが無く、シャワーを浴びるスペースが、カーテンで仕切られているだけでした。シャワーだけなので、水を無駄にしたり、スペースを大きく取ったりすることは無いと思いますが、僕個人としては、湯に浸かることができた方が嬉しいと思いました。●

4. 食事の形式の違い



日本の食事形式



デンマークの食事形式

・日本の食事形式・・・親がメニューや量を決める。

・デンマークの食事形式・・・食べたいものを食べたいだけ取ることのできる、バイキングのような形式。

最後に、「食事の形式」についてです。日本の家の食事は、だいたい親がメニューや量を決めて、用意して出してくれます。例えば、トーストの枚数やうえに乗せる具材なども、です。しかし、ホストファミリーの家では、自分の食べたいものを食べたいだけ取ることのできる、バイキングのような形式でした。ここから、ホストでの食事は、個人の自由に任されていると感じました。そして、ホストファミリーの家で出された料理は、初めて見る物も多かったですが、どれも美味しかったです。●

5. まとめ



日本とデンマークでは、生活にいろいろな違いがあることがわかり、中には日本に取り入れたいものもあった。

また、デンマークの建物やより細かい生活の違いについても調べたいという興味がわいた。

このように、日本とデンマークでは、生活の中にいろいろな違いが見られることがわかりました。どちらにもそれぞれ良いところがあり、日本に取り入れたいこともありました。また、もっとデンマークで過ごすことで、建物についても調べたいという興味が湧いたり、より細かい所まで生活の違いを見つけてみたいと思いました。次は、清瀬かなさんが「デンマークの伝統的な文化」について報告します。清瀬さん、お願いします。●

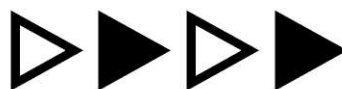
デンマークの 伝統的な文化

鷺別中学校3年 清瀬 栞奈





(演壇の前に立ったら、落ち着いて)
「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始

私はデンマークの色々な文化を調べてきたのでご紹介します。



1つ目 人通りが多い所でも…?!

日本  信号○
信号の指示に従って、運転手と歩行者が行動している

デンマーク  信号×
運転手と歩行者が譲り合いながら行動している

2つ目

食文化について…(1)

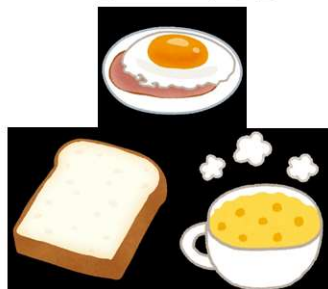
～朝食編～

例えば3日間の朝食メニューは…(日本)

【1日目】



【2日目】



【3日目】

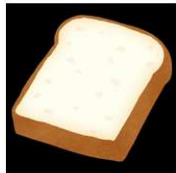


それに比べ、デンマークの朝食は…

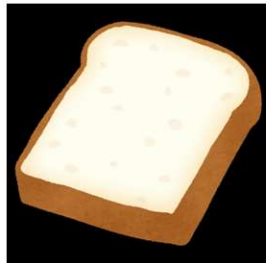
なんと？！

なんと？！

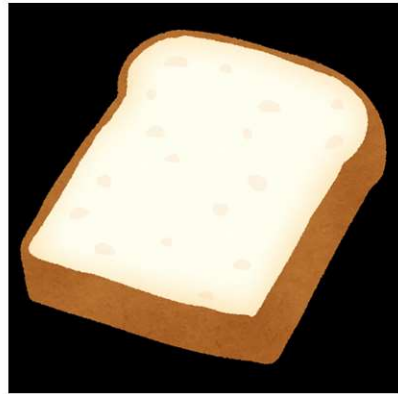
【1日目】



【2日目】



【3日目】



私のホストのおうちは毎日パンもジャムも飲み物も同じでした！

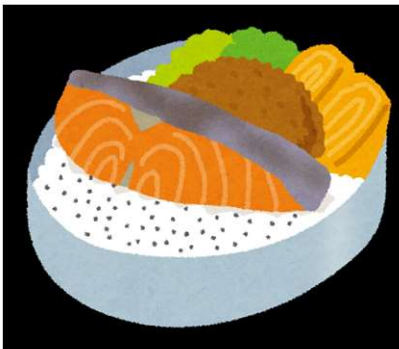
※もちろん家庭によって異なります

食文化について…(2)

～昼食編～

日本の学生の昼食は…

お弁当



学食



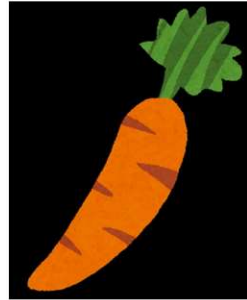
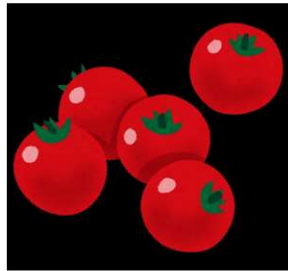
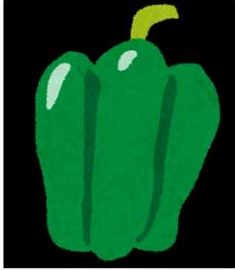
給食



それに比べ、デンマークの昼食は…

《生の野菜》や《果物たち》が多いそうです！

※もちろん家庭によって異なります



実際の昼食の写真



3つ目

きっかけはリンゲフリー校
で数学の授業を受けていた日
のこと…

数学の授業でペンが必要と言われた時のことです

私がシャープペンを用意していたとき…

「Sorry, Please pen.」(ホスト)

(私)「Oh, OK!」

いつも通りシャープペンを渡した。すると…

「No! No! Pen! Pen!」(ホスト)

(私)「This is a pen!」

「What?」(ホスト)

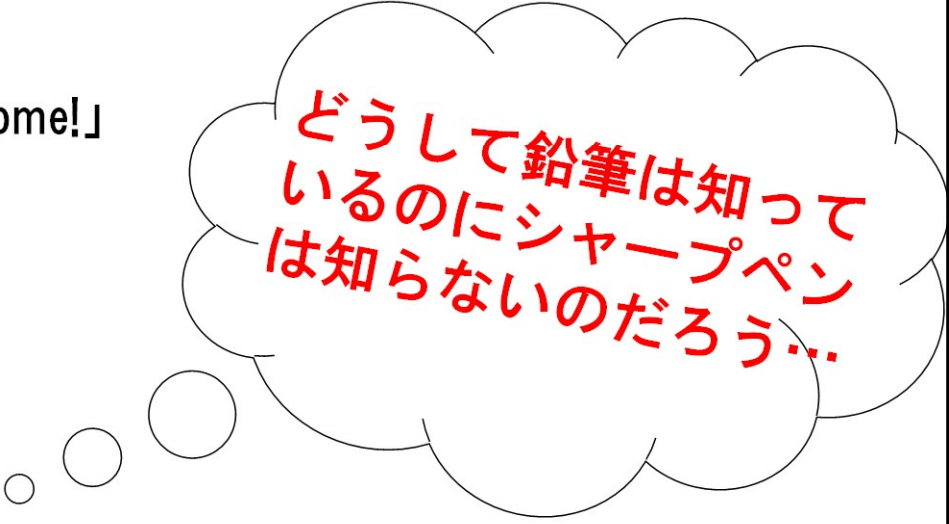
ホストの子は困った顔をした。

私は唯一1本だけ持っていた鉛筆を渡した。

「Oh! Yes! Yes! Thank you!」(ホスト)

驚きながら

(私)「Oh...your welcome!」



どうして鉛筆は知って
いるのにシャープペン
は知らないのだろう...

後でホストの家族に聞いてみると…

デンマークなどにはあまりシャープペンやボールペン文化などがなく、鉛筆や蛍光ペン、日本でいうプロッキーのようなものを使う文化があると教えていただきました！

なので、フリクションのボールペンなどを
お土産に持っていったら喜ばれるそうです！
(私も今回ホストの子に持っていきました＼(^o^)／)



4つ目

遊び文化…？



日本で定番の遊びと言えば…



屋外👉 鬼ごっこやかくれんぼ！

屋内👉 トランプなどのカードゲームや
最近では携帯などのメディアゲームが
多いですよね！



それに比べ、デンマークの遊びは…

屋外👉①フィッシュフィッシュ

《日本でいうワニの川のようなもの》

②ラウンダーズ

《1人がオニになり、他のみんなは手をつなぎ、その「上」や「下」や「間」をくぐって、ぐちゃぐちゃになったところをオニが初めの状態に戻せたらオニの勝ち！》というゲーム



③バスケットやサッカーなどのスポーツ

屋内👉バーカッテン

《お題の絵が1人3～5枚配られ、大量にある絵の中から同じものを選び、自分のチップを置き1番早く全てのチップを置いた人が勝ち！》というゲーム







今回私は、たくさんの文化、他のことについて
も学ぶことができました！
最初で最後になるかもしれない海外への研修が
デンマークで本当に良かった！と心の底から思
うことができました！



私の人生で**最高**で**最大**の思い出になりま
したo(^o^)o

今回の研修に協力してくれた



👉ホストファミリー

👉リングフリー校の生徒
&派遣メンバー



本当に

ありがとう

ございました！

お.わ.り.

次は、ミヤモト サツキ さんが、「デンマークの食べ物について」報告します。
ミヤモトさん、お願いします。●

デンマークの食べ物について



**鷲別中学校 3 年
宮本 彩希**

(演壇の前に立ったら、落ち着いて)
「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始

私は、デンマークの食べ物について、現地で調べてきました。●

1. 機内食



チーズやパンなど

野菜!

機内食は思っ
ていたよりも
豪華でした!



私が出国して最初に食べたものは、国際線の機内食でした。機内食はパンと野菜がメインで、他にチーズやビスケット等がありました。●

私が出国して最初に食べたものは、国際線の機内食でした。機内食はパンと野菜がメインで、他にチーズやビスケット等がありました

2.ホテルの食事



本物!



↑種類が豊富・・・

サラダやフルーツ、ヨーグルト等ヘルシーで食べやすいものばかりでした!

次は、ホテルの食事を紹介します。

ホテルはバイキング制でした。食べ物、やはり野菜が多かったです。その他にも、ハムやチーズ、ヨーグルトがありました。少し驚いたことは、リンゴやナシが丸ごと置いてあったことです。もちろんディスプレイではありません。その後も、ホストからリンゴを丸ごともらった人がいて、丸かじりしていました。●

次は、ホテルの食事を紹介します。ホテルはバイキング制でした。食べ物はやはり野菜が多かったです。その他にも、ハムやチーズ、ヨーグルトがありました。少し驚いたことはりんごやなしがまるごと置いてあったことです。もちろんディスプレイではありません。その後も、ホストからりんごをまるごと貰った人がいて、丸かじりしていました

3.ホストの家の食事



茹でた野菜



フォガデラ



果物ジュースの他
にはこのようなコ
コアのようなもの
もありました

ホストの家では野菜と「フォガデラ」という、日本のハンバーグのようなものを食べました。飲み物も、日本では水かお茶を飲みますが、現地では、果物のジュースが多かったです。ほかには、右の写真の、ココアのような飲み物もありました。●

ホストの家では野菜と「フォガデラ」という日本のハンバーグのようなものを食べました。飲み物も、日本では水かお茶を飲みますが、現地では果物ジュースが多かったです。デンマークで最もよく見かけたのが「ラクリス」というお菓子ですこれは、現地の子供たちが大好きでよく食べていました。しかし、味がとても個性があるので、日本にお土産として持って帰りましたが、口に合わない人が多かったです。ちなみに団長が買ったラクリスが1番味が濃かったです

4. ラクリス



ラクリス
は黒くて
渦巻き状
のものが
多かった
です🍬



デンマークで最もよく見かけたのが「ラクリス」というお菓子です。これは、現地の子供たちが大好きで、よく食べていました。しかし、味がとても個性的なので、日本にお土産として持って帰りましたが、口に合わない人が多かったです。ちなみに、団長が買ったラクリスが1番強烈でした。●

デンマークで最もよく見かけたのが「ラクリス」というお菓子ですこれは、現地の子供たちが大好きでよく食べていました。しかし、味がとても個性的なので、日本にお土産として持って帰りましたが、口に合わない人が多かったです。ちなみに団長が買ったラクリスが1番味が濃かったです

パン！

お肉！👉



かたい
・
・
・



果物！



これは、ほぼ全ての物に共通して私が思ったことですが、固いものが多かったです。パンも、フランスパンのようなもので、野菜やお肉、お菓子も歯ごたえのあるものばかりでした。「濃い味付け」というイメージを持っていましたが、実際はやさしい味が多く、普段日本食を食べてなれている、私たち日本人にも、受け入れやすい食事だったと思います。そのためか、現地の人たちは、やせ型の人が多く、太った人は、ほとんどいませんでした。日本には今、ファストフードやインスタント食品など、添加物の多く含まれる食べ物も多いので、そのような点は、日本もデンマークを見習うべきだと思います。



これはほぼ全ての物に共通して私が思ったことですが、固いものが多かったです。パンも、フランスパンのようなもので、野菜やお肉、お菓子も歯ごたえのあるものばかりでした。味付けも濃いイメージを持っていましたが、実際はやさしい味が多く、普段日本食を食べている私たちにも受け入れられると思います。そのためか、現地の人たちはやせ型の人が多く、太った人はほとんどいませんでした。

日本には今、ファストフードやインスタント食品など添加物が多いのでそのような点は日本も、デンマークを見習うべきだと思いました。私自身も、これからの生活で味の濃いお菓子や食事を控えていきたいと思います。皆さんも、デンマークの食事を生活に取り入れてみたらどうでしょうか

ありがとうございました！



私自身も、これからの生活で、味の濃いお菓子や食事を控えるよう、心がけていきたいと思います。皆さんも、デンマークのヘルシーな食事を生活に取り入れてみたらどうでしょうか？

次は、フナタ キヨカ さんが「首都コペンハーゲンについて」報告します。
フナタさん、お願いします。●

首都 コペンハーゲンについて



西陵中学校1年
船田清夏

西陵中学校1年、船田 清夏です。
私の研修テーマは、「首都コペンハーゲンについて」です。
コペンハーゲンに行って自分で感じた街中の様子を、紹介したいと思います。●

コペンハーゲンの通り



まずは、とまったホテルの近くの様子です。
そこには、様々なジャンルのお店が立ち並ぶ通りやチボリ公園という大型遊園地、
落ち着いた雰囲気のコペンハーゲン駅がありました。
通りは、観光客や現地の若い人でにぎわい、ライブやフェス、道端でサックスや
ヴァイオリンを弾いている人で音楽が多様でした。
お店は、人形屋さんで綿を回す大きなマシンや、
独特な絵の看板などの個性的なものや、
日本でもおなじみのマックやセブンなどに目を引かれ、
探すのも一つの楽しみとなりました。●

チボリ公園



チボリ公園は、日本では考えられない街のど真ん中にあり、大人向けのアクティブな乗り物から子供向けのものまでいろいろありました。帰り際にあがったおおきな花火は、チボリ公園だけでなく、街全体を盛り上げているようでした。●

駅・落ち着いた通り



駅



自転車での移動

一方、駅やホテルがあった通りは静かで、落ち着いていました。
また、歩行者側の道に沢山の自転車が置かれていることなどから、
デンマークの人は、交通手段に自転車を使うことがわかりました。●

建物



建物は、デンマークの人の好きな銅で作られているものがあり、十年くらいたつと、緑に変わるらしいです。あと、レンガや石造り、統一性のある建物が多かったです。
日本の首都の東京はコンクリートや鉄で、新しい建物」が次々と建っているのに対し、コペンハーゲンは古くからそこに建ってるという歴史的な雰囲気を感じました。そして、ごみ箱がよく置かれているなどの便利さも感じられました。●

ニューハウンの様子



次は、有名な観光地ニューハウンの様子です。
ここは、カラフルな家が並ぶ港で、かわいらしさとヨーロップらしさを感じました。周りには歌っていた人とそれをきいていた人で、ここも音楽でにぎわっていました。また、風景写真や家族写真をとっているひともいて、和やかな雰囲気もありました。
名物のバタークッキーなどを売るワゴンのお店も何台も並んでいました。●

終わりに

首都コペンハーゲンはデンマークの文化や歴史を感じられる素敵な街だということがわかりました。

最後に自分の目で見えてきたことだけになりますが、このようなことから、首都コペンハーゲンは、少し街中を歩くだけでデンマークの文化や歴史を感じられる、素敵な街だということがわかりました。聞いていただきありがとうございました。

次は、タキザワ ヨシキ くんが、「デンマークの教育について」報告します。タキザワくん、お願いします。●

デンマークの教育について



西陵中学校 2年

滝沢 恵生

西陵中学校2年、滝沢ヨシキです。

僕は、デンマークの教育について日本とデンマークの違いも含め調べました。●

クラスの数など リンゲフリー校の教室



デンマークの教育について

これは、僕たちが行った教室とは違いますが、リングフリー校の教室の写真です。
この写真ではわかりませんが、僕が行っている学校では、1クラス40人です。
しかしデンマークの学校は1クラス20人程度と、日本の学校の半分程度の人数でした。●

特別支援学級はあるの？



デンマークの教育について

また、特別支援学級など無く、耳や目が不自由な人も、発達障害などの人もみんな同じ教室で授業を受けています。
そのため、先生が口を大きく開けて話すなど工夫をしているそうです。●

設備の違い

リンゲフリー校の音楽室

ヴァイオリンや、ギターなど



デンマークの教育について

これは、リンゲフリー校の音楽室の様子です。



ギターやヴァイオリンなど様々な楽器が置いてありました。

日本の中学校にもヴァイオリンなどが音楽室にあればいいのになあと思いました。



ノーアエア校の様子



こんなの
も!!



廊下

デンマークの教育について

これは、幌別中学校の姉妹校であるノーアエア校の様子です。廊下には、ソファや、遊べる遊具もありました。●

ノーアエア校の様子



グループワーク
の教室

デンマークの教育について

そして、ノーアエア校には、グループワーク専用の教室があり、その教室で、パソコンなどを使いグループワークも体験しました。
また、リンゲフリー校のグラウンドには、ブランコや、バスケットコートなどがありました。●

制服 (*school uniform*) はあるの？



デンマーク↑



日本↑

デンマークの教育について

- -
- 日本には、学ランやブレザーなどの制服がありますが、●
デンマークには日本のような堅苦しい制服はありませんでした。
写真の通り、みんな私服で、ラフな感じがしました。
また、現地の生徒さんに「制服がほしいですか？」と聞くと、「いらないー」と言われました。●

デンマークと日本の教育の違いは…

設備や、クラスの編成などで、日本のほうが良いところ、デンマークのほうが良いところ等、思っていた以上に違いがあった！

デンマークの教育について

今回、日本とデンマークの教育の違いを調べ、クラス人数や、設備など日本のほうが良いところ、デンマークのほうが良いところ等があり面白かったです。
また、日本の学校にも、廊下にソファがあったりしたら、もっと楽しく過ごせるのになあと思いました。●



ご清聴ありがとうございます
ございました

デンマークの教育について

僕の発表は以上です。

次は、ヒグチ ハルヒ くんが、「デンマークと日本の交流について」報告します。
ヒグチくん、願います。●

デンマークと日本の交流について

緑陽中1年 樋口 暖日



(演壇の前に立ったら、落ち着いて)

●「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始

デンマーク王国と登別市の交流①



コペンハーゲンから
電車で二時間半ほど
のリングでホームステ
イをしました。

僕は、「デンマークと登別の交流」について、調べてきました。●

デンマーク王国と登別市の交流②

リングエと登別市が交流している。

ホストファミリーのお父さんが、
「デンマークじゃなくてリングエと登別が
交流しているよ。」
と教えてくれました。

僕は、デンマークに行く前は、国としてのデンマークと登別が交流をしていると思っていました。しかし、ホストのお父さんに聞いてみたら、「デンマークではなくて、リングエと登別が交流しているんだよ。」と教えてくれました。●

デンマーク王国と登別市の交流③

1995年に交流が始まった。

登別にあるマリパークのニクス城は、デンマーク王国のフュン島の南部にあるイーエスコー城をモデルに作った。

イーエスコー城



ニクス城



まず、なぜリングと登別市が交流を始めたのかを説明します。リングと登別市の交流は1995年から始まりました。そのきっかけは、皆さんも一度は行ったことがあるマリパークにあるお城です。

何城というかわかりますか？正解はニクス城です。「登別が、ニクス城を作るとき、モデルとなったのが、リング近郊にあるイーエスコー城なんだよ。」とホストのお父さんは教えてくれました。●

イーエスコー城

- ・1554年に建設された。
湖の上に杭を打って作られており、湖に浮かんでいるように見える。
- ・登別市とファボーミッドフン市の交流のきっかけとなった。
- ・お城には、実際に人が住んでいる。
- ・城から見える景色は、庭が綺麗に整備されていてとても絶景だった。



ニクス城は水族館ですが、イーエスコー城は、実際に人が住んでいるお城です。僕はその城に行きましたが、窓から見える景色はとてもきれいでした。イーエスコー城は、ニクス城とは違った迫力があり、圧倒されました。●

25年前にこの交流事業で
僕のお父さんもデンマークに行っていた。
その経験談を聞いて、この交流事業に興味を持ちました。



今回の交流事業を通して、
今までの登別市とファボーミッドフュン市との交流
の歴史があったから



今、僕がデンマークに行けて
とても貴重な体験ができた！！！！



デンマークと登別の交流のきっかけは、イーエスコー城とニクス城でしたが、その後もデンマークと登別は、市民同士の深い交流を続けてきました。実は、僕のお父さんも25年前、このデンマークの交流事業に参加していました。そして、デンマークの人達の温かさに感動して、自分の子供にも行かせたいと言っていたそうです。

ホストファミリーの交流



- ・英語の苦手な僕でもわかる言葉を喋ってくれた。
- ・初日に緊張をほぐすために、サイクリングに連れて行ってくれた。
- ・ホストのお母さんが「お水いる？」や「今日は良い1日を過ごした？」などを僕に聞いてくれて、とても安心した。
- ・ホストのお母さんが作ったお弁当は、ピザやサラミのサンドイッチでとても美味しかったです。

ホストファミリーのみなさん

僕を受け入れてくださり、ありがとうございました。

僕も実際にデンマークに行って、デンマークの人達が、英語の苦手な僕にでもわかりやすい言葉で話してくれたことや、最初緊張していた僕をサイクリングに誘ってくれたり、たくさん声をかけてくれたりしました。ホストのお母さんは、「今日は良い一日を過ごした？」とか、「お水いる？」など、僕をととてもよく気遣ってくれました。おかげで、すぐにリラックスすることができました。●



～まとめと感想～



この交流事業を通して

デンマークの人の優しさと、登別市との交流や、日本との文化の違いについてよくわかりました。

末永く中学生の派遣交流事業が続いてほしいと思います。
貴重な体験をさせてくださり、ありがとうございました。



僕は、デンマークと登別の交流が、長く続いていてくれて良かったです。これからもこの交流が続いていくように、デンマークで感動したことやたくさんの思い出を、友達などに伝え、デンマークのことを知ってもらうことで、デンマークに行きたいと思う人が一人でも多くなるようにしたいです。そうすることで、これからもずっとデンマークと登別の交流が続き、今後もたくさんの人がデンマークに行ってくれるのではないのでしょうか。みなさんも行ってみたいと思いませんか？

次は、サトウ アカネ さんが、「デンマークのテレビについて」報告します。
サトウさん、お願いします。●

デンマークのテレビについて



北海道登別明日中等教育学校
1回生 佐藤杏花音

(演壇の前に立ったら、落ち着いて)
「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始

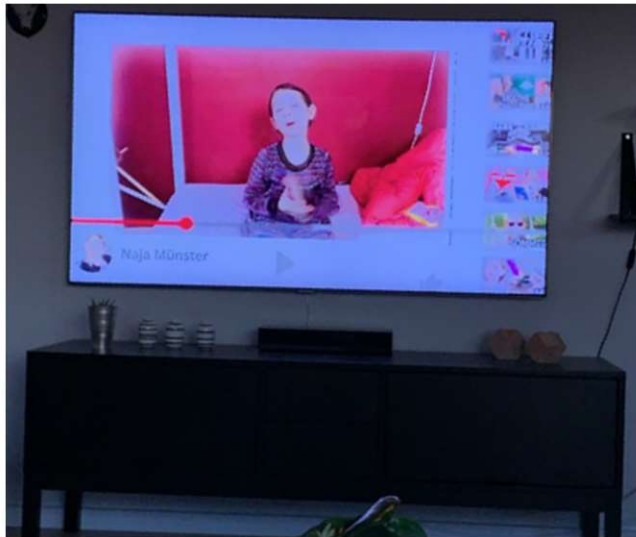


私はデンマークのテレビについて
調べてきたのでご紹介します



私は、デンマークのテレビについて調べてきました。●

デンマークのテレビについて



日本にはないテレビ番組

- ・ You t u b e r の密着取材
- ・ ホストの子が好きな You t u b e r (ロビン)

デンマークのテレビには、20万人や30万人のファンがいるユーチューバーの密着取材のような番組がありました。とても人気のあるユーチューバーの女の子と男の子が取材されていました。日本では、このようなテレビ番組は無いので驚きました。取材されていた男の子はロビンという名前のユーチューバーで、私のホストのアンドレアは、彼の妹と一緒にフットボールをしたことがあると言っていました。●

デンマークのテレビについて

日本でも放送されているような、警察が取り締まっている番組

日本と同じように、飲酒運転とスピードの出し過ぎは
捕まる！



また、デンマークにも、日本と同じような、警察が取り締まりをしている様子を扱った番組もありました。●

デンマークのCMについて

デンマークにもある会社のCM

- ・「トリバゴ」「コープ」のCM
- ・人気のある俳優が出ている。



コマーシャルは、ホテル予約サイトの「トリバゴ」や「コープ」という名前のスーパーマーケットのものがいました。日本でも「トリバゴ」と「コープ」のコマーシャルがあるので、親近感がわきました。その他には、日本の洗濯洗剤「アタック」のように、人気がある俳優たちが出ているコマーシャルもありました。

その他には、「ウルトラ」というデンマークのラジオが入っていました。この番組はトーク番組で、ホストのアンドレアが好きな歌手が出ていて、一緒に歌っていました。その歌手のコンサートにも行ったことがあるそうです。●

デンマークの 子供向けテレビ番組について



デンマークにも
ディズニーチャンネルがある
(夜遅くまでやっていなくてびっくり！)

子供向けのテレビは、ディズニーチャンネルが一般的なようで、夜遅くまでは放送していませんでした。デンマークの人達は、夜寝る時間が早いので、遅くまで子供向けのテレビは放送されていないようでした。●

デンマークのテレビと日本のテレビ

日本の大晦日

- ・ 紅白歌合戦
- ・ 笑ってはいけない



デンマークの大晦日

- ・ 大きな歌番組
(日本でいう紅白歌合戦)



デンマークのテレビについて教えてもらったので、日本のテレビについても教えてもらいました。●日本では、大みそかに有名な芸人たちが「笑ってはいけない」という番組があって、人気だと伝えたと、とても笑っていました。
また、「紅白歌合戦」のことも教えたと、デンマークにもあると教えてくれました。●

デンマークのテレビを調べて

デンマークのテレビには、
ディズニーチャンネルや密着取材が
多かったのですが、
日本はバラエティ番組が多いと
思いました。
英語やデンマーク語を
もっと勉強して、
いつかデンマークのテレビの内容が
わかるようになりたいです。



デンマークのテレビは、ディズニーチャンネルや密着番組が多かったのですが、日本はバラエティ番組が多いと思いました。これから、英語やデンマーク語をもっと勉強して、いつか、デンマークのテレビの内容がわかるようになりたいです。●

今回、この研修に協力してくれた



↑ホストファミリー

↓リングフリー校7学年の皆さん
&
デンマークに行った派遣団の皆さん



今回この研修に協力してくれた、ホストファミリーやリングフリー校のみなさん、そして派遣団のみなさんに感謝します。
ありがとうございました。

次は、テラサワ ミュ さんが、「デンマークで知った食文化」について報告します。
テラサワさん、お願いします。●



デンマークで知った食文化

登別明日中等教育学校 1回生 寺沢 美柚

(演壇の前に立ったら、落ち着いて)
「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始

今まで中国に住んで、東アジアの国々を見てきたり、オーストラリアを旅行したりする中で、世界の食文化に興味をもつことができました。
私は、まだ行ったことのないヨーロッパに行くことで、見てきた国々の食文化の違いを見つけ、食から見える幸せについて考えたいと思い、デンマーク派遣研修(はけんけんしゅう)を希望しました。●

ホストファミリーとの食事について



デンマークの朝食

- ・ フルーツ、ヨーグルト、シリアルを混ぜ合わせたもの
- ・ 牛乳

朝食は、●

ホストファミリーの庭でとれたミニトマトやリンゴと、シリアルをヨーグルトに入れ、牛乳と一緒にいただきました。

健康を意識した食事で、日本の朝食よりもシンプルな献立でしたが、ホストファミリーのお父さんは「ヨーグルトの中にシリアルを入れることでスタミナがつくよ」と言っていて、日本との食の考え方の違いを知りました。●

ホストファミリーとの食事について



デンマークの昼食

- ・生のニンジン、きゅうり、ミニトマト
- ・ラップサンド



そして、昼食のために持たせてもらったランチパックの中身が、とても衝撃的でした。



その中身は、生ニンジン、生きゅうり、桃とデンマーク料理のラップサンドで、透明のビニール袋に入っていました。

袋の中に食べるものが入られているデンマークに比べ、弁当箱の中におかずがきれいに並んで入っている日本のお弁当は、作ったおかずを大切にし、食べてくれる人を楽ませる日本の食文化のすばらしさを改めて感じることができました。●

ホストファミリーとの食事について



デンマークの夕食

- ・ ジャガイモ（粉ふきいものような料理）
- ・ ジャガイモ（いももちのような料理）
- ・ 赤キャベツの酢あえ
- ・ 豚肉を焼いて、スライスした料理
- ・ サラダ

夕飯には、●

お肉とジャガイモを使ったデンマーク料理をいただき、脂身(あぶらみ)の少ないお肉料理から健康を大切にする食文化にふれることができました。

また、ジャガイモにかかっていたグレイビーソースは、こってりした味で、少し茶色く、まるで日本の味噌のような感じでした。●

デンマークのホテルの食事



特徴

- ・小麦粉を用いた料理が多い
- ・フルーツと野菜が豊富
- ・パンの種類が多い
- ・チーズとハムがあるのも特徴かと



デンマークのホテルの食事は、バイキング形式でした。●
小麦を用いた料理があることや、フルーツや野菜が豊富にあるなどの特徴が見られ、
●
健康を意識したデンマークの食文化が感じられました。●

デンマークの街中での食事



特徴

- ・ フルーツや野菜が豊富
- ・ 塩やオリーブオイル、こしょうで味つけられたものが多い。
- ・ 乳製品が多い。

街中での食事は、●

フルーツや野菜が多かったように思えます。味付けは、塩やオリーブオイル、黒コショウといった簡単なものでした。●

乳製品や肉、野菜が一般的な食事に使われているようです。●

デンマークの食事のマナー



特徴

- ・ 客人から先に盛り付けること
- ・ 食べ終わりに、フォークとナイフをお皿の右端に置く。

食事をする時は、お客さんから先に自分のお皿に盛り付けるのが、マナーのようです。●

食べ終わりにはフォークとナイフをお皿の右はしに置くことで、食べ終わったことを知らせます。そして、作った人に「今日は食事をありがとう」と感謝の言葉を言います。日本では、みんなでそろって「ごちそうさまでした」と言って、食事の時間が終わるので、一人で食事が終わるデンマークの食文化に驚きました。

また、デンマークには、作った人への感謝と食べ物に対する感謝、両方が大切にされていることに、とても感動しました。●

デンマークでのおにぎり交流



- ・北海道米をデンマークの人に食べてほしい。

- ・デンマークの人の口に合うように、ツナマヨを用意した。

- ・日本からレンジパックのご飯とツナ缶、のりを持って行った。

ホストファミリーの家で、私とさつきさんで●
おにぎりを作りました。

デンマークでは、タイ米が多く、おすし屋さんでも使われていると聞きました。

私は、デンマークの人に北海道米を食べてほしいと考え、おにぎりを作りたいと思いました。

おにぎりの中身は、デンマークの人でもおいしいと思う、ツナマヨネーズにしました。

日本から、レンジパックのご飯と、ツナ缶、のりを持っていきました。

ホストファミリーの人に作り方を教え、みんなでおにぎりを作りました。

ホストファミリーには、大変(たいへん)好評で、「おいしい」と喜んでくれて、わたしたちをほめてくれたことが、とてもうれしかったです。●

デンマークの食事の雰囲気



- ・ 会話がはずむ楽しい雰囲気

- ・ がやがやせず、程よく明るい雰囲気

デンマークの食事の雰囲気は、●

みんなが楽しめる雰囲気だと感じました。今日の出来事など会話がはずむ様子、また、がやがやと大にぎわいするのではなく、程よく明るい様子が見られ、心地(こころ)よい感じがしました。

日本では、お話をおさえ、静かに食の時間を楽しもうという雰囲気があります。中国に住んでいた時は、中国の食事は大にぎわいで、街中で食べているような雰囲気でした。

だから、デンマークの適度に心地(こころ)よい食事の雰囲気は、とても気に入りました。●

食文化から考えるデンマーク



デンマークは幸福度で世界一になったことがある国です。●
私は食文化で「幸せ」を感じたならば、●それは健康を意識した食事と食材のよさを
生かした料理であったと思います。東アジアの国々も「医食同源」を意識し、食事か
ら健康になろうと努(つと)めています。
デンマークでも同じようなことを感じることができました。●

おわりに



これからも、日本の食文化やおもてなしの心を持ち、外国の人に日本のよさを広めていきたいと思います。

デンマーク研修に行かせていただいた登別の皆さんに感謝します。

お聞きいただき、ありがとうございました。これで、私の発表を終わります。

次は、ヤナセ モチル さんが、「デンマークの建物」について報告します。

ヤナセさん、お願いします。●

デンマークの建物



北海道登別明日中等教育学校3回生 柳瀬望琉

(演壇の前に立ったら、落ち着いて)
「学校名」「学年」「名前」を伝えてから、発表開始



形がユニーク



石造り



私は、デンマークの建物について調べてきました。日本とは違う石造りの建物や●
ユニークな形の建物●が多くありました。
その中でも特に印象的だった2つの建物について紹介します。●

イーエスコー城



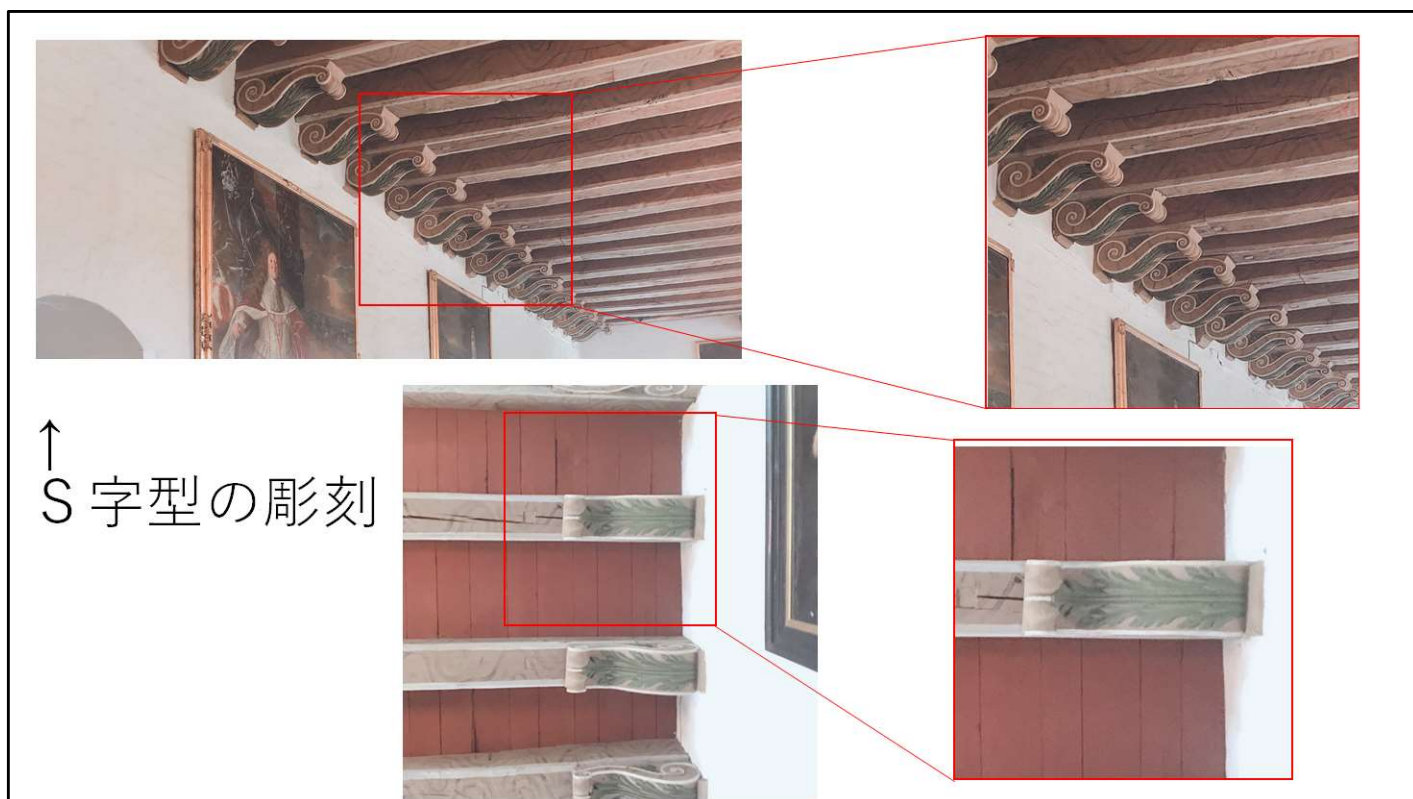
マリンパーク・
ニクス城の
モデル

まずは、イーエスコー城です。このイーエスコー城が登別マリンパークのニクス城のモデルになったということもあり、外観のイメージはわいていたのですが、驚かされたのはその内観でした。●

《展示されていた家具》



城の中には、代々使われてきた家具などが展示されていて、それらにも興味をひかれましたが、天井の柱にも目を奪われました。●



柱の両端に写真のようなS字型の彫刻があり、●
サイドは1枚の葉を模したようになっていました。●
細部にまで、このようなこだわりがあるのは、日本の城とも似ている部分のように感じました。●

《屋根裏展示》



また、他の部屋や家具は、各階ごとに展示の仕方が工夫されていて、特に屋根裏のおもちゃやアンティークを、透明なドームの中にひとつひとつ入れて飾っていたのが、面白かったです。そのドームの中には、船や電車など、乗り物のおもちゃが多く入っていて、半径10センチメートル位の小さなドームや半径35センチメートル位の大きなドームにいくつかのおもちゃが入っているものなど、ドーム自体のバリエーションも豊富でした。それらのいくつかを一枚のガラス板にはめ込んでいて、その組み合わせも、また面白かったです。●

カラフルな家



in アンデルセン博物館



in ニューハウン

次は、アンデルセン博物館やニューハウンで見た、カラフルな家々です。それらはピンクや水色、白や黄色の家がすきまや凸凹が無く並んでいて、日本には無い独特なものだと思いました。●

アンデルセン博物館



アンデルセン博物館は、一階建て、二階建ての小さな家が多かったのですが、●


ニューハウン



3～4階建て

ニューハウンでは横幅が狭い分、三階建て、四階建てになっている家が多く、人が生活できるスペースと景観を同時に確保できていると思いました。●

他にも.....



もう一度デン
マークに行って、
もっと多くの建
物を見たい！

この他にも、デンマークには魅力的な建物が多くありました。北欧らしいユニークな形のショッピングセンターやビル、日本には無い石造りの建物、カラフルな家々。日本では出会わない刺激だったので、私も、実際に建物として取り入れられずとも、インテリアなどで取り入れてみたいと思いました。また、今回はほんの一部しか見られなかったなので、ぜひもう一度デンマークへ行って、他にもたくさんの建物を見てみたいと考えています。●

ご清聴ありがとうございました！



そして、私たち、派遣生徒9人の発表を、これで、すべて終わります。

ご清聴ありがとうございました。

帰国報告会資料 (引率者)

2020 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流団



DAY 1
8月9日

新千歳空港
↓
成田国際空港
↓
コペンハーゲン











DAY 2

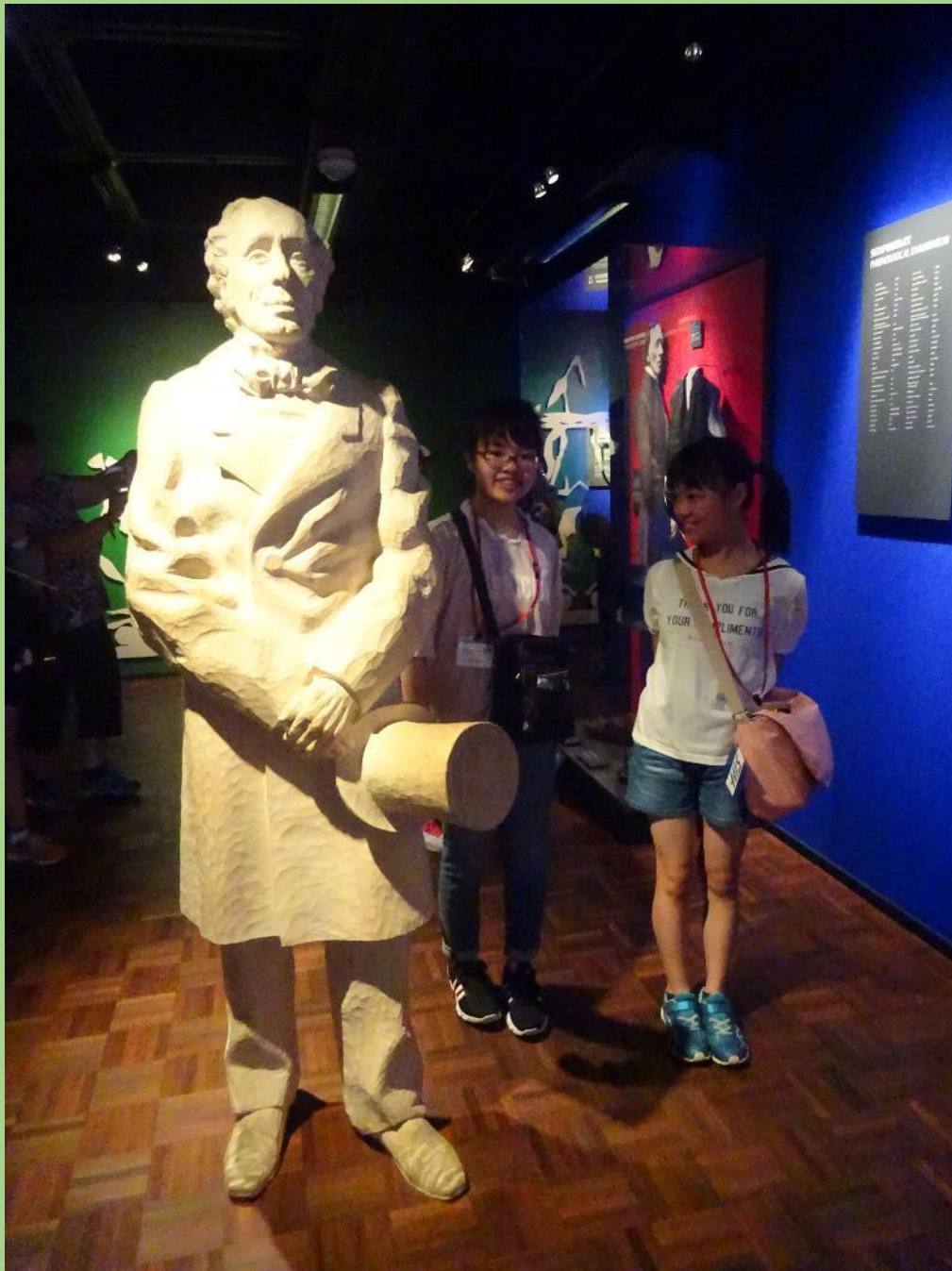
8月10日

コペンハーゲン
↓
オーデンセ観光
↓
リンゲ











DAY 3

8月11日

ショッピングセンター
↓
海辺の公園







DAY 4

8月12日

リンゲフリー校



ファボーミッドフュン
市役所訪問



老人ホーム訪問



森の幼稚園訪問















リンゲフリー校
朝の集会

保護者参観日

8月13日朝





Julian & Co. Ltd.
The company is a leading provider of
the world's most advanced
technology for the
construction industry.

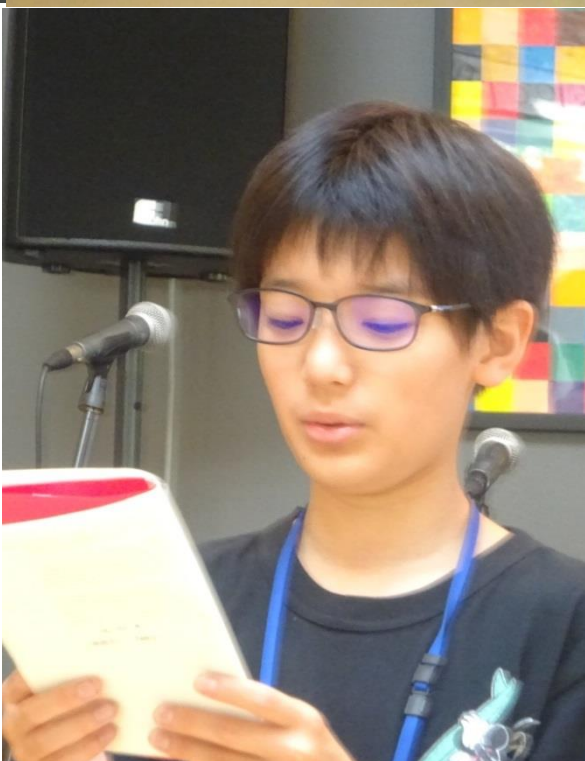
Julian & Co. Ltd.
The company is a leading provider of
the world's most advanced
technology for the
construction industry.

Julian & Co. Ltd.
The company is a leading provider of
the world's most advanced
technology for the
construction industry.

Julian & Co. Ltd.
The company is a leading provider of
the world's most advanced
technology for the
construction industry.



プレゼン
テーション



8月13日朝





リンゲフリー校
授業体験:保護者授業参観
8月13日 午前





ノーアエア校訪問

8月13日午後

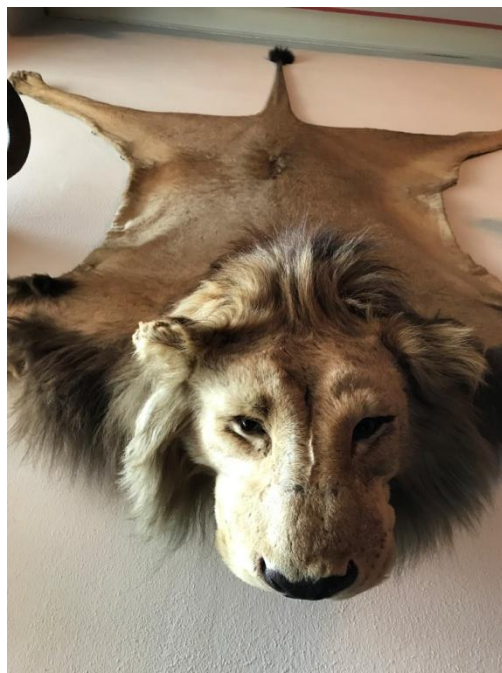
グループプロジェクトに挑戦！





イーエスコー城 見学

8月13日





8月13日夕方
リジさんのシニアハウス訪問



8月14日
レゴランド







リングフリー校
お別れ会

8月14日







8月15日
リングェ駅でお別れ











コペンハーゲン
オリンピック施設

8月15日





コペンハーゲン 市内観光

8月15日



念願の
チボリ公園へ
8月15日

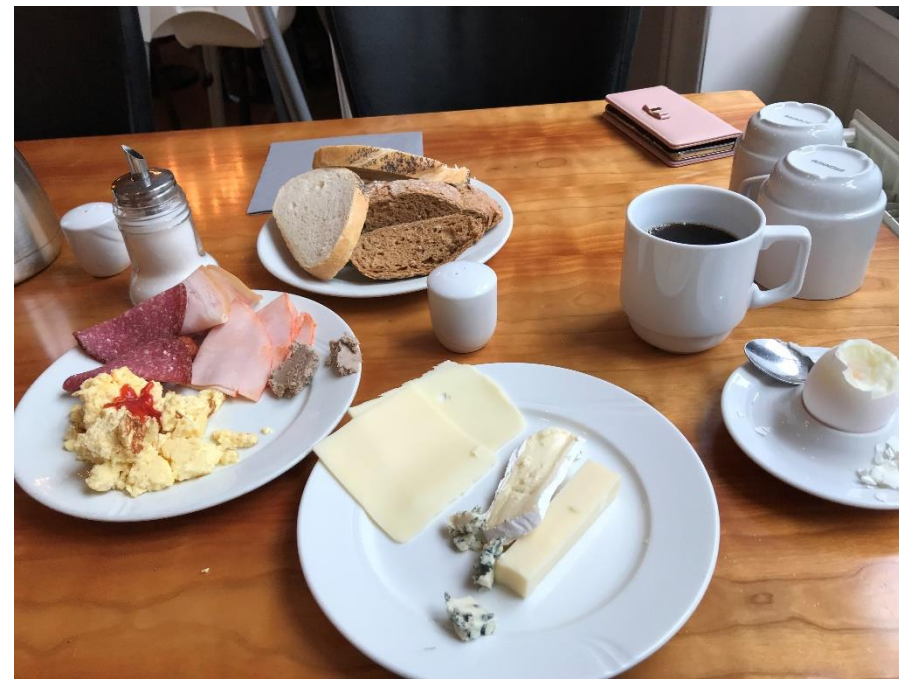




TIVOLI
FESTIVAL
2019



MÅ IKKE FOTOGRAFERES!
KØB I STEDET TURPAS PLUS, OG FÅ FRI ADGANG
TIL ALLE DINE FORLYSTELSESFOTOS DIGITALT



Final Day
8月16日





帰着
8月17日



友好都市協定書

デンマーク王国リング市及びウィスリング市と日本国北海道登別市は、１９９７年に「友好の絆」を交わして以来、リング・ウィスリング・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リング市、ウィスリング市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リング・ウィスリング・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフュン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno